

つ な が り



里湖づくりヤット参人's



こ・結



里山コミュニティ夢織



中山道410

おうみ未来塾第8期生卒塾報告書
2006年6月～2008年3月

目次 contents

卒塾を迎えて.....	1
8期生に向けて ~塾長・運営委員のメッセージ~.....	3
2年間のあゆみ.....	7
グループ研究活動の記録.....	20
こ・結.....	21
里湖づくりヤット参人's	25
中山道410.....	31
里山コミュニティ夢織.....	39
塾生が語る未来塾の学び.....	47



卒業を迎えて

いつにない春の雪景色に戸惑いを覚えつつ日を過ごし、それでも本当の春がすぐそこにやってくるように感じています。春の息吹を感じる今日のよき日に、このような盛大な卒業式を挙行頂きました事に、卒業生を代表して深く感謝申し上げます。私たちみらい塾8期生28名は2年間の学び・実践を終え本日無事卒業することができました。

湖国各地から更には県外から集まった年齢も違う、経歴も様々な私たちは、具体的な活動のイメージもはっきりと掴めずに入りました。何時しか私たちの活動の指標となっていたのは、先輩である7期生の方々でした。7期生に追い付け、追い越せ；それらを意識し始めていたが、いえいえ、8期生は8期生らしさを大切にしようという皆の思いが一致しました。お互いにフォローし合いながら、コミュニケーションを大切にして、グループ活動も其々の活動がよいものになるよう情報交換をしよう；そして、今日、28名が参加する其々の活動を、次の活動の展望を含めて報告することが出来ました。8期生で繋がっていた私たちは今後卒業生というより広い繋がりの中で、2年間で学んだ様々な体験を活かして活動を続けたいと思います。

最後になりましたが、日高塾長、運営委員を始めお世話になりました皆様のご健康と益々のご発展をお祈りしお礼の言葉とさせていただきます。

平成20年3月2日

おつみ未来塾8期生 一同



PART1

8期生に向けて メッセージ

2年間お世話になりました、塾長や
運営委員の皆さんからのきびしくも
温かい励ましのメッセージです。
私たちが心ひとつに活動することを
陰日向に支えていただきました。





おうみ未来塾塾長
日高敏隆
(動物行動学者・滋賀県立大学初代学長)



おうみ未来塾運営委員長
北村裕明
(滋賀大学教授)

卒塾おめでとう！

8期生の皆さん、卒塾おめでとう！

皆さんの成果発表会をお聞きして、あらためて考えたことは、「地域プロデューサー」とは何かということでした。

地域プロデューサーが育つ場として始まった「おうみ未来塾」が、年数を重ねる中で、何となくわかったような気にもなっておったのですが、やはり、これこそが、おうみ未来塾の発足当時の課題です。

たしかに、卒塾生の中から「地域プロデューサー」と呼ぶにふさわしい方も何人も出ておられますし、8期生の活動も立派にプロデュースをしている——塾が始まった頃に比べると、本当に、みなさんプロデュースが上手になったなあとも感じます。先輩たちの活躍で道筋もついてきたし、今後もますます皆さんに活躍してもらえとも思います。

それでも、「地域プロデューサー」とは何かということ、やはりまだ答えは出ていないと僕は思います。おうみ未来塾が地域プロデューサーが育つ塾であるからには、この課題は今後もみんなで考えていくべき課題であり、考えていくことはしんどいことでもあるけれども、考えることから新しいアイデアが生まれてくるのだらうと感じています。

卒塾という区切りを迎える8期生のみなさんにも、今後も、この課題と向きあいつつ、元気にやっていってください。

地域がかわる

おうみ未来塾は、地域プロデューサーのためのグループ活動を、卒塾のための重要な要件としてきました。グループ活動の中で、地域の問題を発見し、それを解決するための政策を考え、実践する力が形成されることを期待しているからです。

グループ活動を行うためには、グループの中で考え、地域に入り、地域の人々と共に考え、専門家の意見を聴き、地域資源を再発見しながら、何をどのように行うのが有効かを議論し、そして実践し、評価するという作業が必要となります。地域プロデューサーのためのグループ活動として優れているかどうかの評価基準は、共感の輪をグループ内だけでなく地域にどれだけ広げられたかであり、その活動を通じて地域がかわるきっかけを提供できたかどうかであると思います。

先日、7期生の「ひょうたんからコマ」グループの成果である、「ほんがら」DVD上映会に出席しました。近江八幡市島学区で、50年前に姿を消した「ほんがら松明」という地域資源を再生する作業を、映像で記録した優れた作品です。地域資源の再生のためには、地域の生産と生活と人の繋がりの再建が必要であることがよく描かれていましたし、映像がそうしたことを伝える有効な手段であることにも改めて気付かされました。しかし何より、「ひょうたんからコマ」のグループ活動が、地域の人々に「ほんがら松明」という地域資源の重要性を再認識してもらうきっかけを作り、実際に映像として残す作業に関わったことが、未来塾にとって大きな成果だと思います。

皆様方のグループ活動が、地域がかわるきっかけを与えることができることを期待するものです。



おうみ未来塾運営委員
岡崎昌之
(法政大学教授)



おうみ未来塾運営委員
岸田眞代
(NPO 法人パートナーシップ・サポートセンター代表理事)

未来塾の成果を 今後のまちづくりへ

卒塾者の皆さん、2年間の活動、大変ご苦勞様でした。これまでの生活とは一味変わった2年間ではなかったでしょうか？ 基礎的な視野を広げる1年目、グループで活動を共にして研究を深めた2年目、こうして積み重ねたものは、ご自身の内側に蓄積された知識や知恵となって今後活かされてくるでしょう。

ただ運営委員としてお手伝いさせていただいたものとしては、それを越えるものを期待したい気持ちです。それはこの間の、未来塾での活動を通して形成された皆さんのネットワークや人間関係を今後どう活かすかです。塾生同士、現場で関わりあった地域住民の方々、話を聞いた専門家、淡海ネットワークセンター、運営委員等々、多くの関係者が、この未来塾には関与しています。

これからの地域課題は多様化していきます。環境、教育、福祉、医療、地域文化、コミュニティ・ビジネスなど、私たちの身近な地域社会レベルで、早急に解決が迫られている課題解決型まちづくり問題が山積しているのです。これらの課題に対応していくには、深い専門性も必要とされます。

皆さんが今後、こうした問題や課題に逢着したとき、活用すべきが未来塾で培ったネットワークです。課題を解決する知恵や、新しいものに取り組む独創力や創造力は、多くの場合、他者との議論や協働行為のなかから生まれることが多いのではないのでしょうか。

未来塾の成果をぜひ今後のまちづくりに活かしてください。

8期生の皆さん、 ご卒塾おめでとうございます。

私が「おうみ未来塾」にかかわり始めてからも8年が経ったことになります。

ますますこの「おうみ未来塾」の意味 & 意義を感じ始めているところです。ついに姉妹塾として(?)「あいち未来塾」の実現への一歩をこの春から歩み始めることになりました。否、「なった」のではなく、「しました」というべきですね。

それは、開塾以来今年10年目を迎える「おうみ未来塾」が、滋賀県内に200人を超える人材を輩出し、地域の活性化に一定の影響力を発揮し始めているという実績とその重みを、運営委員の一人として実感しているからに他なりません。言うまでもなく、8期生のみなさんもその想いをいっそうかき立ててくれた方たちに他なりません。

この2年間の威力はきっとこれから徐々に現れてくるのではないのでしょうか。かけた時間と努力は、必ず自分自身に戻ってくる、そして地域に還元される、と信じています。

「あいち未来塾」も、そうした先輩「おうみ未来塾」に倣って…とはいえ、おうみ未来塾のように財政基盤は保証されたものではありませんが、同じく今年10周年を迎えた私たち「パートナーシップ・サポートセンター」が、愛知万博で得たモリコロ基金の助成を受けてようやく実現したものです。それはそれでまた違った味が出ればいいのか？ と、密かに考えているところです。

8期生のみなさんの、あの真剣で熱心でアイデアあふれるグループ研究をはじめ2年間のそれぞれの想いや志が、「あいち未来塾」にも飛び火し、ともに切磋琢磨、相乗効果が生まれればと願っているところです。

8期生のみなさん、私に、そんな楽しくも困難を予測させる事業に取り組ませることになった責任としても(?)、これから大いに「地域プロデューサー」として活躍していただかなければ…ですね。心から期待しています。



おうみ未来塾運営委員
澤 孝彦
(おうみ未来塾第1期生)



おうみ未来塾運営委員
藤井 絢子
(滋賀県環境生活協同組合 理事長)

卒塾おめでとうございます。

8期生のみなさん、卒塾おめでとうございます。2年間のおうみ未来塾はいかがでしたか。新しい自分を見つけたり、また新しい仲間とのネットワークが出来たりして、たいへんながらも充実した2年間であったのではないかなと思っています。

地域の実情は、それぞれの地域で当然のように違い、よかれと思いやって行こうとすることに対して、いろんなことを言われたりして予想もしない問題や障害が出てくることがあります。でも、その障害を一つひとつ乗り越え、「悪戦苦闘」というの貴重な経験を繰り返して行く中で、地域プロデューサーのあり方が人それぞれにわかってくるのではないかと思います。

グループ活動で誕生した4つのグループは、それぞれ卒塾後も継続して活動を続けて行かれるということで、たいへん嬉しく思います。継続は力なりです。地域の人と一緒に汗を流しながら、より一層グループの思い、つばやきをカタチにして頂き、人と地域の感動あるドラマを作って頂きたいと思っています。ますますのご活躍を心から期待しています。

おうみ未来塾 8期生のみなさまへのメッセージ

“菜の花プロジェクトは、ほんまに地域を元気にするんかいのう”「菜の花プロジェクト」を長年プロデュースする中で、いつも、この広島メンバーの投げかけたことばに込められているかと反芻しています。

8期生の4つの活動に、あてはめてみました。

- ①「中山道410」は
ほんまに地域を元気にするんかいのう
- ②「里湖づくりヤット参人's」は
ほんまに地域を元気にするんかいのう
- ③「こ・結」は
ほんまに地域を元気にするんかいのう
- ④「里山コミュニティ夢織」は
ほんまに地域を元気にするんかいのう

そうたやすいことでないことは確かです。1年や2年で元気の確信など得られようも無いからです。でも、活動を通し、その一端は見えてほしいと思います。卒塾は、スタートに立ったということ、これから「はじまる宣言」をしたのだという気持ちでいてほしいのです。

中山道は魅力ある街道です。「中山道410」のチームは、2012年「中山道410年祭」までに、まず9つの宿をつなぎ、話・輪・環・和を築く当初のミッション実現に向け、どう動くか？楽しみです。

「里湖づくりヤット参人's」プロデューサーは、ヤットでは出来ません。ヤットがはずれる活動に向かいいるか？卒塾の時点では、クエッションのままです。

「こ・結」こ・湖・心・コミュニティいろんな「こ」を“結”びたい！その為には、チームの結びあいが大前提ですが、残念ながらその課題は引きずったままだったようです。これから、どう結びをつくるか？待ちましょう。

「里山コミュニティ夢織」風の人(ヨソ者)土の人(地の人)水の人(つなぎ役)光の人(プロデューサー)が見事にかみあった活動まで高まりました。琵琶湖周辺の多様な里山再生に、新たなチームが加わりうれしいです。

昨年の卒塾生にも伝えましたが、1、2年は燃える。プロデューサーが本物かどうかは、継続性、発展性が年毎にどう高まるかにかかっています。更に今回は、「ほんまに地域を元気にするんかいのう」と付け加えたいと思います。

PART2

2年間のあゆみ

とても長かったはずなのに終わってみればあまりに短かった未来塾活動の2年間。県内各所を所狭しとかけめぐった私たちの足跡です。



メイン講義の概要

■ 第1講

〔日 時〕 2006年6月25日（日）

〔場 所〕 ひこね燦ぱれす、ぼぼハウス

〔プログラム〕

13:00～ あったかファミリーステーション「ぼぼハウス」 施設見学

13:45～ 講義「NPOぼぼハウスの歩み」

講師：山脇吟子 氏（NPO法人NPOぼぼハウス理事長）

15:00～ 講義「地域プロデューサーの時代」

講師：北村裕明 氏（運営委員長）

16:00～ ふりかえり・塾生会



■ 第2講

〔日 時〕 2006年7月9日（日）

〔場 所〕 野洲市中央公民館

〔プログラム〕

9:30～ ワークショップ「アサーティブ・トレーニングによるコミュニケーション」

講師：初田元明 氏（人権啓発トレーナー）

13:30～ 塾生会「第8期の塾運営について」



■ 第3講

〔日 時〕 2006年7月29日 (土)

〔場 所〕 マルチメディアセンター、しみんふくし滋賀、酒遊館

〔プログラム〕

- 10:00～ 塾生会・メーリングリスト講習会
- 11:00～ 講義「近江八幡のまちづくり」
講師：吉田正樹 氏 (未来塾1期生、近江八幡市商工観光課)
- 12:15～ 講義「町家を活かした福祉」
講師：成瀬和子 氏 (NPO法人 しみんふくし滋賀 事務局長)
- 12:30～ 施設見学
- 13:30～ 講義「間の会の活動／フィールドワークガイダンス」
講師：NPO法人 (申請中) はちまんまちづくり間の会
- 13:45～ フィールドワーク「町並み保存と市民のかかわり」
案内：NPO法人 (申請中) はちまんまちづくり間の会
- 15:00～ 講義「新しいまちづくりの目指すもの～地域プロデューサーの資質と役割～」
講師：岡崎昌之 氏 (運営委員)
- 16:30～ ふりかえり
- 17:30～ 酒遊館施設見学・懇親会



■ 第4講

〔日 時〕 2006年8月19日（土）～20日（日）

〔場 所〕 長浜勤労者総合福祉センター、まちづくり役場、芸術版楽市楽座アートインナガハマ事務局、三谷旅館
〔プログラム〕

- 8月19日 10:00～ 塾生会
13:00～ 講義「長浜のまちづくり」
講師：辻川作男 氏（NPO法人 ギャラリーシティ楽座理事）
14:00～ 講義「フィールドに出るにあたって」
講師：岸田真代 氏（運営委員）
15:00～ まちづくり役場 見学
15:00～ 講義「誰が動いてもいいじゃないか～多様な主体がまちを変える～」
講師：山崎弘子 氏（NPO法人 まちづくり役場）
16:00～ 講義「アートインナガハマとギャラリーシティ楽座の誕生について」
講師：澤田昌宏 氏（NPO法人 ギャラリーシティ楽座）
17:00～ 講義「長浜市の観光行政について」
講師：北川賀寿雄 氏（長浜市商工観光部観光振興課）
18:00～ 懇親会〔みそ乃〕
21:00～ 夜なべ談義&宿泊〔三谷旅館〕
8月20日 9:00～ 講義「長浜から学んだことを活かすために」
講師：岸田真代 氏（運営委員）



■ 第5講

〔日 時〕 2006年9月2日（土）

〔場 所〕 針畑郷山村都市交流館「山帰来」

〔プログラム〕

10:30～ 針畑地域・ブナ原生林 見学

11:00～ DVD鑑賞「針畑の自然と暮らしを探る」

13:00～ 講義「NPO法人朽木針畑山人協会の紹介」

講師：今井一幸 氏（NPO法人朽木針畑山人協会代表理事）

13:10～ 講義「針畑地域のさまざまな語らい」

講師：村田健三 氏（針畑区副区長・NPO法人朽木針畑山人協会監事）

指導：澤孝彦 氏（運営委員）

指導：北村裕明 氏（運営委員長）

15:00～ ふりかえり



■ 第6講

〔日 時〕 2006年10月22日（日）

〔場 所〕 愛東マーガレットステーション、市ヶ原町里山

〔プログラム〕

10:00～ あいとうエコプラザ菜の花館 見学

講師：藤井絢子 氏

（運営委員、NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表）

12:00～ 「里守隊の活動」見学、体験活動、「愛東地域の獣害の現状」視察

案内：寺本憲之 氏（東近江地域振興局環境農政部農産普及課）

案内：野間直彦 氏（滋賀県立大学講師、おうみ木質バイオマス利用研究会）

案内：松井賢一 氏（東近江地域振興局農産普及課、おうみ未来塾1期生）

14:00～ DVD鑑賞・講義「現場から学ぶ」

「菜の花エコプロジェクトはどのように広がっていったのか

～プロジェクトを取り巻く多様な主体から学び、地域に活かす～

講師：寺本憲之 氏、野間直彦 氏、松井賢一 氏

コーディネータ：藤井絢子 氏

16:00～ 塾生会



■ 第7講

〔日 時〕 2007年1月7 (日)

〔場 所〕 ピアザ淡海

〔プログラム〕

13:35～ コンセンサス・ゲーム

14:10～ 講義「共感のマネジメント～グループ研究活動にあたって～」

15:20～ ワークショップ「事業計画作り」

講師：阿部圭宏 氏 (NPO法人市民熱人代表)



○ おうみ未来塾 8 期生 みんなで集い・話し合った

塾生会・世話人会の記録



【塾生会】

塾生全員が参加し話し合う場で、世話人会（地域グループ、後に活動グループから 1 人以上の参加で構成）が運営する

◇ 第 1 回

日 時：2006 年 7 月 9 日（日）13:30～16:30

場 所：野洲市中央公民館 第 2 講座室

- 内 容：① メーリングリストの設置について
② 塾生会の運営について
③ 地域グループについて

8 期生 3 つの目標

- ◇ 8 期生が互いに知り合い、仲良くなる
- ◇ 塾生がもつフィールドを活かして、様々な分野を経験する
- ◇ 現場を重視する

1 年目地域グループ

- ◇ のんびりんぐ 5 人衆 コナン 大津京

◇ 第 2 回

日 時：2006 年 8 月 19 日（土）10:00～12:00

場 所：長浜勤労者総合福祉センター（臨湖）研修室

- 内 容：① 塾生会・世話人会について
② 地域グループについて



◇ 第 3 回

日 時：2006 年 9 月 30 日（木）10:00～12:00

場 所：コラボしが 2 1

- 内 容：① サブ講義企画発表
② 世話人会からの提案（テーマ決めの進め方について）





◇ 第4回

日 時：2006年10月15日（日）13:00～17:00

場 所：野洲市中央公民館

内 容：① 希望の研究活動テーマをひとりずつ発表



◇ 第5回

日 時：2006年10月22日（日）16:00～17:30

場 所：道の駅愛東マーガレットステーション 2階会議室

内 容：① 希望の研究活動テーマをひとりずつ発表

第4回・第5回の塾生会、及びメーリングリストを利用して各人からの研究活動テーマが出揃う。以後グルーピング、そしてテーマのアイデア出しを行う。

◇ 第6回

日 時：2006年11月4日（土）13:30～16:00

場 所：高島地域地場産業振興センター 2階技術開発室

内 容：① 地域グループに分かれて希望の研究活動
テーマのグルーピング作業

② 考えられるテーマのアイデア出し



◇ 第7回

日 時：2006年11月26日（日）13:00～17:00

場 所：ピアザ淡海県民交流センター 302会議室

内 容：① 地域グループに分かれてテーマ・企画の
アイデア出し

② テーマ別に分かれて企画のアイデア出し
(教育・福祉・環境・産業)

③ テーマ・グループ分けの方法について
意見を出し合う





◇ 第8回

日 時：2006年12月2日（土）10:00～12:00

場 所：森遊館 研修室

内 容：① テーマ別に分かれて企画のアイデア出し（教育・福祉・環境・産業）

◇ 第9回

日 時：2006年12月17日（日）13:00～17:00

場 所：ピアザ淡海県民交流センター 201会議室

内 容：① テーマ別に分かれて企画のアイデア出し
（教育・福祉・環境・産業）



◇ 第10回

日 時：2007年1月21日（日）14:00～17:00

場 所：東近江NPOセンター

内 容：① グループ研究活動テーマの決定
② 各グループによる話し合い



◇ 第11回

日 時：2007年2月18日（日）13:00～17:00

場 所：ピアザ淡海県民交流センター 201会議室

内 容：① 各グループの研究活動計画の発表
② 意見交換

各人からの希望研究活動テーマだしに始まり、グルーピング、テーマのアイデア出しを経て、研究活動グループが決定した。

◇ 楽しむ・助け合い・遊び・学ぶ → こ・結び（9人）

◇ 湖南アルプス里山コミュニティ → 里山コミュニティ夢織（7人）

◇ 中山道410年 → 中山道410（9人）

◇ びわこ → ヤット参人's（3人）

◇ 第12回

日 時：2007年3月21日（日）13:00～17:00

場 所：ピアザ淡海県民交流センター 202会議室

内 容：① 7期生成果発表会を受けて感じたことを話し合い、
研究活動計画に活かす



- ◇ 1月31日の世話人会で、二年目の8期生のつながりについて話し合う
2～3ヶ月に1度は塾生会で進捗状況の報告を行おう（交流会も併せて）
塾生会は、各活動グループが担当する

◇ 第13回

日 時：2007年5月20日（日）13：00～17：00

場 所：多賀大社、高宮宿

- 内 容：① 塾生会（各グループの進捗状況報告）
② 多賀大社でお祓い 宮司さんによるお話し
（テーマ：多賀大社と中山道について）
③ 高宮宿を散策
④ 懇親会



◇ 第14回

日 時：2007年7月16日（月）13:00～17:00

場 所：ナルクびわこ彦根「ナルクの館」

- 内 容：① ナルクの活動について
② 塾生会
③ 懇親会



◇ 第15回

日 時：2007年9月8日（土）9日（日）13:00～翌朝

場 所：マイアミ浜オートキャンプ場

- 内 容：① 漁師からの話
② 塾生会
③ 懇親会（BQ）



◇ 第16回

日 時：2008年1月20日（日）16:00～19:00

場 所：NPOびわこ豊穰の郷2F

- 内 容：① 卒塾式について
② 記念品について



【世話人会】

地域グループ、後に活動グループから1人以上の参加で構成し、塾生会の運営や8期生全体の活動予定を計画する

◇ 第1回

- 日時：2006年9月9日（土）17:30～19:30
場所：草津市立まちづくりセンター 308会議室
内容：① 11月、12月のメイン講義内容について
② 9月30日塾生会について
③ 世話人会の進め方



世話人会、誰が世話するの

◇ 第2回

- 日時：2006年10月10日（火）19:00～21:00
場所：近江八幡勤労者福祉センター
内容：① 10月15日、22日の塾生会の進め方

◇ 第3回

- 日時：2006年11月6日（月）19:00～21:00
場所：コミュニティセンターきたの
内容：① テーマ決め・グループ分けの進め方について
② 12月2日塾生会について



グループ分け・・・どうする？

◇ 第4回

- 日時：2006年11月26日（日）17:30～19:30
場所：淡海ネットワークセンター
内容：① テーマ決め・グループ分けの進め方について
② 12月塾生会について



一品持ち寄り、世話人会



◇ 第5回

日 時：2006年1月10日（水）19:00～21:00

場 所：野洲市中央公民館

内 容：① 1月21日塾生会の進行について

② 今後の8期生運営について

◇ 第6回

日 時：2006年1月31日（水）19:00～21:00

場 所：コミュニティセンターやす

内 容：① 1年目の活動記録について

② 2月18日塾生会の進行について

◇ 第7回

日 時：2006年2月27日（火）19:00～21:00

場 所：野洲市中央公民館

内 容：① 3月21日塾生会の進行について

② びわこグループについて



PART3

グループ研究 活動の記録

地域プロデューサーをめざし、取り組んだグループ研究活動の記録です。グループには分かれたけれど、それぞれのテーマが8期生の課題と考え、つながりを大切に取り組みました。



こ・結

むすび

「3世代交流サポートプラン」の推進

子・湖・心・コミュニティ…いろんな「こ」を“結”びたい！そんな想いで私たちは集いました。

少子高齢化、核家族化が一段と進むなか、今、地域社会における“きずな”の脆弱性・希薄性が指摘されるところです。

そこで、世代間の分断、いわゆるジェネレーション・ギャップを繋ぐコンセプトとして、“3世代交流活動”に取り組み、「地域社会の再生・復活」をめざしています。

その活動の中心が、大津市・仰木の里をフィールドとして“格闘中”の子どもと親、そして高齢者を“結”ぶ「だがしや楽校」です。

メンバー 荒木威 岡本奈美子 小倉久美子 小林充周 笹川勝
澤哲男 巽優紀子 古脇ひとみ



だかしや楽校

はじまり・はじまり

<こ・結グループ>

小林 充岡 澤 哲男 荒木 威
 小倉 久美子 笹川 勝 古臨 ひとみ
 岡本 美奈子 翼 優紀子

協力メンバー
 森 俊一(9期生) 平井 育恵(6期生)
 山本 拓也(8期生)

だかしや楽校 1

グループ 研究目的

少子高齢化、核家族化が一段と進む中で、今、地域社会における“きずな”の脆弱性・希薄化が指摘されています。そこで、このきずなを強固にする手段として、子どもと親・高齢者とを結び遊び・学びのふれあいの場づくりです。これが『だかしや楽校』の開校・定着です。

グループの願い

- ◇いろいろな「こ」を結びたい
- ◇地域社会の再生・復活をめざす
- ◇3世代交流活動の活性化
- ◇副次効果
 - ・地域プロデューサーの育成、防災・防犯向上
 - ・伝統・文化の継承など
 - ・住んでよかったと思える地域社会の構築

だかしや楽校 2

具体的活動の進め方

テーマ:『だかしや楽校』の開校・定着で地域社会の“ふれあいの場”づくり

- 現状分析
 - 1.1 テスト開校の実施
- 計画の設定
 - 2.1 参加人員の目標
 - 2.2 この目標達成の手段・方法
- だかしや楽校を2、2に基づきPDRを実施する。
- 楽校終了時に、2、2に基づき振り返りとチェックを実施する。
- チェックの後、次回開校の2.2の見直しをする。
- だかしや楽校定着のための品質管理マニュアルの作成

3

テーマ:だかしや楽校の開校・定着で地域社会のふれあいの場づくり

計画の設定(Plan)

1.1 参加人員の目標

子ども	30人以上
保護者	10人以上
70歳以上	5人以上
スタッフ(実行委員・世話人)	10人以上

1.2 目標達成の手段・方法

◇だかしや楽校の企画

- ・スタッフ(実行委員・世話人)の募集・選出
- ・経費の確保
- ・場所の選定・・・仰木の里1丁目旧公園案内所
- ・開催日時・・・毎月の第3土曜日 13時～16時
- ・参加者の募集方法・・・チラシ
- ・駄菓子等の品目、値段、展示方法、買い方、売り方などの取り決め
- ・遊び・学びの種類

◇「こ・結」グループメンバーのかかわり方、その他

5

テーマ:だかしや楽校の開校・定着で地域社会のふれあいの場づくり

計画の設定(Plan)

1.1 参加人員の目標

子ども	30人以上
保護者	10人以上
70歳以上	5人以上
スタッフ(実行委員・世話人)	10人以上

1.2 目標達成の手段・方法

◇だかしや楽校の企画

- ・スタッフ(実行委員・世話人)の募集・選出
- ・経費の確保
- ・場所の選定・・・仰木の里1丁目旧公園案内所
- ・開催日時・・・毎月の第3土曜日 13時～16時
- ・参加者の募集方法・・・チラシ
- ・駄菓子等の品目、値段、展示方法、買い方、売り方などの取り決め
- ・遊び・学びの種類

◇「こ・結」グループメンバーのかかわり方、その他

5

開校 6月～8月の Do

計画の手段・方法について実施、だかしや楽校の開校

- ◇ 第3回 6月16日・・・落書きコーナー & ミサンガ
- ◇ 第4回 7月21日・・・絵葉子 & スーパーボールすくい
- ◇ 第5回 8月18日・・・スーパーボールすくい

6

6月～8月のチェック・アクション

- ◆ 良かったこと
 1. 子どもが多く集まり、ふれあいがはかれた。
 2. 市議会議員、自治会長の東校があり、感謝できた。
 3. コーナーさえ作れば子ども同士工夫して遊ぶ。
 4. 16時から大人のおしゃべりコーナー 脱けた。
 5. 屋外にテント設置、大人のおしゃべり場になった。
 6. スーパーボールすくい、夏は水遊びが人気があった。

- ◆ 悪かったこと、課題点
 1. シニアの参加が少ない。
 2. 地域住民の参加はさらに工夫が必要。
 3. 夏は外での遊び・節電さコーナーは昼間で人気なし。
 4. 時間が長く、世話役は疲れる。
 5. スタッフの不足

- ◆ 次のアクション
 1. 地域各人各さんの参加→グランドゴルフ体験イベント
 2. 遊びコーナーの増加と充実
 3. 遊び道具購入の資金を調達する→県社会福祉協議会「子ども未来基金」の申請。
 4. 地域住民へのPR→チラシ充実、のぼりの製作、
自治会との協働

参加者	目標値	6月	7月	8月
子ども	30	50	30	12
保護者	10	15	10	5
シニア	5	2	3	1
スタッフ	10	7	5	3



7

後半の開校 Do(9月～2月)

第6回 平成19年9月15日
・グランドゴルフ体験

第7回 10月20日
・仰木の里小学校へ出前講座

第8回 11月17日
・かざぐるま作り

第9回 12月15日
・松ぼっくりのクリスマスツリー

第10回 平成20年1月19日
・正月遊び

第11回 2月16日
・まんだら塗り絵



だがしや楽校

8

「だがしや楽校」広報活動

- ・新聞掲載→京都、産経、朝日、朝日あひあい滋賀の取材を受ける。
- ・ラジオで紹介→NHKラジオ第1「ラジオタリ」・FM滋賀
- ・地域イベント出店→学区子どもフェスタ・自治会夏祭り・小学校にじのはしまつり
- ・人権を考える大津市民のつどい 仰木中ブロック「秋の集會」
第2分科会テーマ「地域での子どもの居場所づくり」で話題提供
- ・【大津子どもの広場事業】「伝統文化を体験しよう!」で昔遊びコーナーを担当
- ・湖国まるごとエコミュージアム「第3回ただえあう交流会」
「だがしや楽校運営による子どもの居場所づくり」でエントリー
「まるごとエコお泊りに優秀賞」受賞!

だがしや楽校

9

後半のチェック・アクション

- ◆ 良かったこと
 - ・グランドゴルフイベントでシニアと子どもたちの交流ができた。
 - ・のぼりの製作で活動のシンボルとなった。
 - ・志向町社会福祉協議会「子ども未来基金」で、積み木、ボードゲームを購入。遊びの充実。
 - ・だがしや楽校が理解されて、新聞記者が呼んでくれた。
 - ・地域社会の認知が深まり、ふれあいの場の継続にもつながった。

- ◆ 悪かったこと
 - ・スタッフの不足
 - ・準備に時間がかかる。
 - ・後片づけに時間がかかる。

参加者世代	目標値	9月	10月	11月	12月	1月	2月
子ども	30	25	120	27	25	29	31
保護者	10	7	30	5	8	7	8
シニア	5	5	0	2	3	2	0
スタッフ	10	5	8	5	5	7	7

- ◆ 次の課題・アクション→子どもたちの居場所、地域ふれあいの場所継続のために
 - ・準備・後片づけのスピードアップ・・・視察ホグダスの工夫、参加者にも分担させる
 - ・継続、定着で世代間交流の活性化・・・自治会との協働、遊びアイテムの工夫、出前講座、交流会などでPR
 - ・スタッフの増加・・・参加者の中でスタッフを育てる、標準化
 - ・資金の確保・・・補助金の申請、出前講座の実施

だがしや楽校

10

今後の予定

～「だがしや楽校」は今後も地域で継続していきます!～

・3月15日(土) 「だがしや楽校」看板作りのワークショップ
～ 成安造形大学の学生さんの協力 ～

・6月21日(土) 木のブロックでバス作り
～ 県建築士協会青年部会さんの協力 ～

※平成20年度「子どもゆめ基金」の助成金を申請中です。

※20年3月～21年3月 野菜作り
～ 地域の高齢者さんの協力 ～
収穫を楽しめるイベントにつなげていきたい。

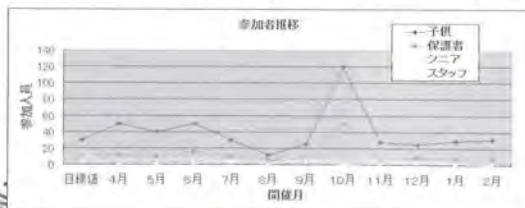


だがしや楽校

11

だがしや楽校 Check

参加者世代	目標値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
子ども	30	50	40	50	30	12	25	120	27	25	29	31
保護者	10	12	10	15	10	5	7	30	5	8	7	8
シニア	5	1	1	2	3	1	5	0	2	3	2	0
スタッフ	10	8	9	7	5	3	5	8	5	5	7	7



グループ研究目的の評価

◇研究目的
 だがしや楽校の定着で地域社会のふれあいの場づくり

◇1年後の到達目標
 ・だがしや楽校の定着で「子どもたちの居場所」づくり

◇評価・成果
 ・子どもたちの居場所が定着し、世代間のふれあいができたことは、高く評価したい。
 ・1月27日の「たたえあう交流会で嘉田知事より「まるエコおおきに優秀賞」の表彰。

・「こ・結」グループメンバーの熱き思い
 ・子どもの居場所としてのだがしや楽校の継続で、子どもの成長を願うと同時に地域のふれあいの場所になり、世代間の交流が盛んになることを願っています。
 ・我々の地域でもふれあいを大切にし、安全・安心なまちになり、住んで良かったと思うまちを目指して、行動していきたいと思っております。

だがしや楽校

13

蛭谷自治会活動の あるべき姿

自治会はあなたの経験・能力を必要としています。
 どの分野で参加できますか？

人のふれあいのある町

安心・安全・明るい町 環境の良い・清潔な町
 住んでよかった町 だたえあう町

文化・伝統の維持と継承のある町

さと うみ 里湖づくりヤット参人'S

子どもびわこ自然環境体験・学習ステーションづくり

今の子ども達は、琵琶湖や小川などでの遊びが極端に少なくなっていますか。便利で快適な生活環境が進むにつれて、人々と琵琶湖の関わりが遠のいたように思いませんか。

私たちの活動のミッションは、「マザーレイク琵琶湖を青少年の心に育もう」です。このミッション達成のため、青少年が琵琶湖の水辺で遊び、学び、感動する喜びを体験できる「基地（水辺の学校）」を、野洲市の浜辺（マイアミランド）に地域の様々な人々、団体や民間企業と協働して立ち上げようとしています。

メンバー 石倉憲治 小野森弘 鎌田忠則 日下部純子
本田忠光 佐藤理恵 巽優紀子 三井直美



里湖づくりヤット参人'S

グループ研究活動の記録

おうみ未来塾第8期生 グループ研究活動 成果報告

里湖づくりヤット参人'S

テーマ
子どもびわ湖自然環境
体験・学習ステーションづくり



研究活動グループメンバー

- 本田忠光
- 鎌田忠則
- 小野森弘
- 日下部純子
- 石倉憲治
- 佐藤理恵
- 巽優紀子
- 三井直美

研究目的(ミッション)



「マザーレイク琵琶湖を青少年の心に育もう」

琵琶湖の豊かな自然環境を守り育てていくために、琵琶湖の水辺で青少年が遊び・学び感動する喜びを体験できる基地(水辺の学校)を、野州市の浜辺(マイアミランド)に地域の人々や団体、民間企業、行政などと協働して立ち上げようとするものです。

研究フィールド



活動の足跡



① 自主学習

- 定例ミーティング
(毎週水曜日:ほほえみの湯)
- プレゼン5ポイントの作成
- 「琵琶湖環境学習」に参加
- 京都CSR研究会、「企業とNPOの対話のタベ」
- 「里湖づくりの会」の立ち上げ
- 植物資源調査の学習(中村一雄先生)

② 地域活動参加

- 湖岸一斉清掃
- あやめ浜祭り
- ヨシ植栽活動
- 「琵琶湖の水と地域の環境を守る会」の総会へ参加
- 「野洲川でんくうの会」特別講座に参加

③ フィールド活動

- ワンペーパーの作成 → 一目瞭然！！
- 関係主体へのプレゼン(野洲市と湖岸開発など)
- 意識調査(あやめ浜まつり)
- フィールド資源調査
- 「資源マップ」の作成
- 「昔の写真」集め

ワンペーパーの作成



③ フィールド調査

- ワンペーパーの作成 → 一目瞭然！！
- 関係主体へのプレゼン(野洲市と湖岸開発など)
- 意識調査(あやめ浜まつり)
- フィールド資源調査
- 「資源マップ」の作成
- 「昔の写真」集め

意識調査(あやめ浜まつり)

○ 大人用アンケート

○ 子ども用アンケート

意識調査(あやめ浜まつり)

○ 大人用アンケート結果



○ 子ども用アンケート結果



③ フィールド調査

- ワンペーパーの作成 → 一目瞭然！！
- 関係主体へのプレゼン(野洲市と湖岸開発など)
- 意識調査(あやめ浜まつり)
- フィールド資源調査
- 「資源マップ」の作成
- 「昔の写真」集め

「資源マップ」の作成



③ フィールド活動

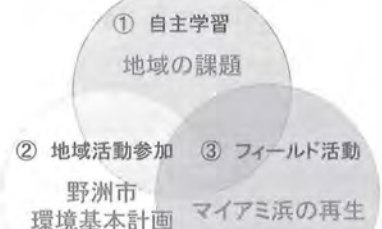
- ワンペーパーの作成 → 一目瞭然！！
- 関係主体へのプレゼン(野洲市と湖岸開発など)
- 意識調査(あやめ浜まつり)
- フィールド資源調査
- 「資源マップ」の作成
- 「昔の写真」集め

「昔の写真」集め



活動の成果

(見えてきたこと、分かってきたこと)



見えてきたこと、分かってきたこと

- 地域の課題・・・里湖の再生
琵琶湖と生活との関わりを取り戻したい
- 野洲市環境基本計画・・・地域課題の取り組み
我らの活動テーマを地域課題に位置づける必要性
- マイアミ浜の再生・・・施設の老朽化、償還期限
地域のマイアミ浜に再生する課題

到達目標の評価

活動計画書に基づく1年後の到達目標
『関係主体の共同事業でマイアミランド施設内に「子ども琵琶湖自然環境体験・学習ステーション」設立の確証を明らかにする』

- 「確証」の達成度：
具体的な「確証」のイメージが掴み切れていない
- 現在の到達成果：
「人と琵琶湖との関わりを取り戻す」ことが地域課題になりうるという確信が持てた
「関わり」とは、地域の生活そのものではないか
「取り戻す」とは、人と琵琶湖の「再生」ではないか
「再生」とは・・・今後の追求課題

今後の活動計画 (里湖づくりの会の活動)

- ① 自主学習
体験・学習プログラム作成やイベント企画、CSR学習
- ② 地域活動参加
市民活動との交流・連携・協力
- ③ フィールド活動
湖岸の再生課題の掘り起こし
- ④ 協働事業調査
水辺の学校づくり

グループメンバーの一言

- 本田忠光「地域の笑顔が最高!!」
- 鎌田忠則「本当の課題を見つける力」
- 小野森弘「地域の活力」
- 日下部純子「船上は爽快!!」



中山道^よ4^い1^わ0

近江中山道に良いワを築き 410 年祭の実現を

中山道の文化再発見、新発掘を行い、宿場まちの新しい景観の創造、ネットワークの確立、活性化事業を図り、2012年「中山道410年祭」の準備と、琵琶湖滋賀県の中山道に良いワ（話・輪・環・和）を築くことをテーマとして活動します。

これまで「近江中山道夢みる座談会」を、愛知川を皮切りに鳥居本、醒井、高宮、豊郷と各宿場で開催してきました。楽しくみんなで語ることから、中山道の未来を紡いでいきたいと考えています。

メンバー 河林利明 西沢久夫 星加満久 三井直美 山本拓也
吉田栄治 米澤明子 日下部純子 中川勇





<ミッションと事業>

ミッション

◆近江中山道の文化再発見、新発掘を行い、まちの新しい景観の創造、ネットワークの確立、活性化事業を図り、2012年「中山道410年祭」の準備と、琵琶湖滋賀県の中山道に良い話(輪環和)を築くことに寄与する。

主な実施事業

話しあう 近江中山道 夢見る座談会
輪になる 宿場イベントへの参画
環境 白鳥川沿いミニ中山道を整備
和む 和菓子マップ
琵琶湖 中山道410年祭実施団体の設立

中山道410

<現地調査>

- ◆中山道9宿場の現地調査
 - ・産業(和菓子、酒、醤油、料理、喫茶)
 - ・遺跡(昭和30年代に存在した建造物)
 - ・町の人(風俗、暮らし、祭り、行事)
 - ・キーマン(自治体、図書館、歴史館、郷土史家、まちづくり団体、大学)
- ◆白鳥川の現地調査
 - ・よし笛ロードの距離測定

中山道410

話しあう 近江中山道 夢見る座談会の構成

・スライド 約60分
・お茶、お菓子 約15分
・座談会 約45分

約120分

中山道410

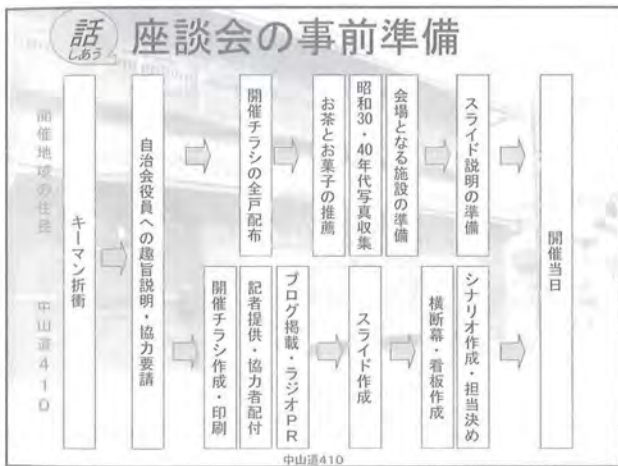
話しあう 「夢見る座談会」の告知チラシ

中山道410

話しあう 座談会の開催概要

宿場名	開催日	会場	参加	スライド	茶菓
愛知川宿	4月	珈琲セブン社	37	73	酒まんじゅう・焼菓子
鳥居本宿	6月	旧鳥居会館	28	18	すり餅餅、七爽茶
醒井宿	6月	醒井公民館	33	56	醒井餅
高宮宿	7月	高宮地域文化センター	34	30	旭堂酒まんじゅう
豊郷	8月	豊会館(又十屋敷)	45	33	坊ちゃんかぼちゃケーキ
柏原宿	10月	柏原宿歴史館	42	90	草もち

中山道410



話 座談会参加者の声

- 懐かしい写真に感動、解説付き良かった。
- 母（知人）が写っており懐かしかった、涙が出てきた、今日参加してとても良かった。
- 先人達の偉業や故郷を大切にしたい。
- 残して欲しい町屋や家並みがいっぱいある。
- 地域の方が一同にこのような話する機会がないのでとても良かった。
- 百数十年以上も前の家に住んでいるが、維持するのが大変、悩んでいる。
- 1回きりにならないように続けてほしい。

中山道410

話 座談会参加者アンケート(1)

アンケート	回答項目	回答数	比率 (%)	愛知川	鳥居本	醒井	豊郷	柏原	計	比率 (%)	回答率 (%)
1. 何で参加したか	自治会回覧・配布	9	8			1	8	9	8		
	TV・新聞	11	10	8		1	2		11	10	
	チラシ	29	28	6	5	4	5	9	29	26	2
	ブログ	4	4	2	1				4	4	
	関係団体、地域からの案内	15	13	5	2	1	5	2	15	13	3
	知人からの案内	37	33	9	5	8	5	12	37	33	1
	その他	7	6		1	3		3	7	6	
		112	100						112	100	
2. アンケートの感想	口良し	84	80	23	11	14	10	26	84	80	100
	口やや良し	21	20	1	2	8	8	21	20		
	口やや悪し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口悪し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		105	100						105	100	
3. 今後の開催希望	口良し	74	73	17	11	9	10	16	74	73	99
	口やや良し	27	26	7	2	3	8	8	27	26	
	口やや悪し	1	2	1	0	0	0	0	1	2	
	口悪し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		102	100						102	100	

中山道410

話 座談会参加者アンケート(2)

アンケート②	回答項目	回答数	比率 (%)	愛知川	鳥居本	醒井	豊郷	柏原	計	比率 (%)	回答率 (%)
4. 写真の感想	口良し	52	53	12	7	4	9	26	52	53	99
	口やや良し	42	43	17	3	9	10	12	42	43	
	口やや悪し	4	4	1	2	0	1	4	4	4	
	口悪し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		98	100						98	100	
5. 今後の開催希望	口良し	21	46	9	8	8			21	46	79
	口やや良し	15	33	9	3	8			15	33	
	口やや悪し	5	11	1	1	0			5	11	
	口悪し	1	2	0	1	0			1	2	
	不明	4	9	1					4	9	
		26	54						26	54	
6. 今後の開催希望	口良し	75	77	21	13	12	8	21	75	77	99
	口やや良し	21	21	5	0	4	7	5	21	21	
	口やや悪し	2	2	0	0	0	1	1	2	2	
	口悪し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		98	100						98	100	

中山道410

話 座談会参加者アンケート(3)

アンケートID	回答項目	回答数	比率 (%)	愛知川	鳥居本	観ヶ井	豊島	結原	(計)	比率 (%)	回答率 (%)
A. 愛知川地区在住	良い	43	64	12	6	9	4	12	43	64	85
	やや良い	15	22	7	1	1	2	2	15	22	
	やや悪い	7	10	3	0	0	1	0	7	10	11
	悪い	1	1	0					1	1	
	回答未済	1	1						1	1	1
		24	26						24	87	100
B. 豊島地区	良い	6	4	1	1	1	0	1	4	4	51
	やや良い	43	47	11	4	7	9	9	43	47	
	やや悪い	20	22	1	1	5	5	0	20	22	23
	悪い	3	3					0	3	3	
	回答未済	23	25	0	0	0	0	10	23	25	25
		87	96						87	91	100
C. 結原地区	良い	5	5	1	2	1	1	0	5	5	62
	やや良い	52	57	14	6	6	12	13	52	57	
	やや悪い	17	19	2	0	1	2	0	17	19	20
	悪い	3	3	0					3	3	
	回答未済	16	16	3	1				16	16	16
		84	85						84	91	100

中山道410

話 座談会参加者アンケート(4)

アンケートID	回答項目	回答数	比率 (%)	愛知川	鳥居本	観ヶ井	豊島	結原	(計)	比率 (%)	回答率 (%)
A. 結原地区在住	良い	67	71	14	10	10	9	24	67	71	88
	やや良い	26	27	5	2	5	7	7	26	27	
	やや悪い	2	2	0	0	0	1	1	2	2	2
	悪い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		95	100						95	100	
B. 豊島地区	10才代	1	1	0	1	0	0	0	1	1	
	20才代	5	4	3	1	0	1	0	5	4	
	30才代	4	3	2	0	0	2	0	4	3	
	40才代	12	10	4	4	0	1	3	12	10	4
	50才代	27	22	6	2	5	3	11	27	22	3
	60才代	31	25	5	4	3	4	15	31	25	7
	70才代	25	31	6	1	0	7	16	25	31	1
80才代	4	3	0	1	3	0	0	4	3		
		100	82						122	100	

中山道410

話 座談会の問題点・課題

- ◆座談会の開催関係
 - ・キーマンの協力度が鍵
 - ・若年層の参加がほとんどなく、高齢者が多い。
 - ・放映の写真解説者の人選（解説する人がいない）
 - ・お菓子の購入店の選定に苦慮。
 - ・高齢者が多いこともあり、会費に厳しい意見。
- ◆参加者の声関係...
 - ・聞きっぱなし傾向になってしまう。
 - ・行政担当窓口の参加も配慮が必要か。
 - ・提案等について関連先との連携、フォロー。

中山道410

輪 愛知川宿66番祭参加まで

- 開催1か月前
66番祭への茶店出店の提案。
- 告知チラシ

販売品：鳥居本宿名物

すりばり餅 ななそうちや七爽茶

しかし

- ・鳥居本宿婦人会が参加不能
- ・前々日にも座談会の開催ピンチ！ → 代案模索

愛知川宿66番祭
10月28日(日) 10:00-16:00

中山道410

輪 愛知川宿66番祭の準備

- ・愛知川商工会から出展許可
- お菓子と茶 座談会DVD
- 宿場パネル 宿場アンケート

関係者の期待高まる

食欲に 餅の自力製造を！

- ・鳥居本で料理法を調査・研究
- ・有川製菓から茶製品の提供
- ・店舗イメージ案・材料購入
- ・グループ外から参加応募

中山道410

輪 愛知川宿66番祭出店実現

大盛況！
二時間で

完売

その中で
得たもの

中山道410

輪 になる 鳥居本作文集との出会い

- 鳥居本宿「ふるさと鳥居本」というグループが作成した作文集『語り伝えたいふるさと』
 - 手書きの作文にコピーを重ねている。
 - 残数がかなり減ってきているとのこと。
- といった内容を座談会の事前打合わせで聴取した。



中山道410

輪 になる 作文集の製本に向けて

メンバーが分担して冊子の文字を入力しデザイン、校正から印刷、製本まで。

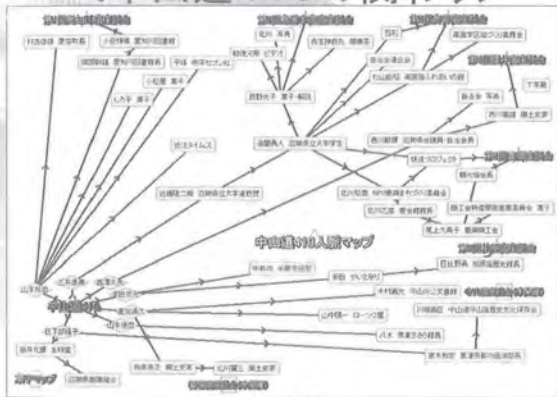


完成した冊子



中山道410

<中山道410の関わり>



中山道410

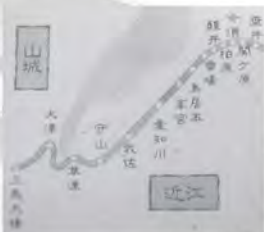
座談会参加者アンケート(1)

アンケート	回答項目	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)	回答数	比率 (%)
町でお知り	自治会役員・記者	9	5			1	6	2	8				
	TV・新聞	11	10	9		1	2		11	10			
	チラシ	29	26	8	5	4	5	3	29	26	2		
	ブログ	4	4	2	1			1	4	4			
	関係団体・現場からの案内	15	13	5	2	1	5	2	15	13	3		
	地元民からの案内	21	20	9	5	6	5	12	27	25	1		
その他	7	6		1	3	3	7	6					
		112	100					112	100				
中山道410の関わり	口頭	88	80	23	11	14	10	26	84	80		100	
	チラシ	21	20	1	2	3	8	5	21	20			
	配布資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	口頭	0	0					0	0	0		0	
		109	100					109	100				
和菓子マップ	口頭	34	73	11	33	8	10	20	74	73		59	
	口頭	27	28	1	2	1	8	9	27	28			
	口頭	1	2	1	0	0	0	0	1	2		1	
	口頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
		102	100					102	100				

中山道410

<今後の取り組み>

- ◆ グループ活動
 - ・ 月1度の会議開催
 - ・ NPO立ち上げ方向
- ◆ 座談会
 - ・ 番場宿、武佐宿、守山宿の開催
 - ・ 実施場所のキーマンへの再訪問



中山道410

<今後の取り組み>

- ◆ 白鳥川ミニ中山道
 - ・ 関係自治体へのアプローチ
 - ・ 浮世絵看板熟考
- ◆ 和菓子マップ
 - ・ 和菓子の選定
 - ・ ウェブサイトの選定
 - ・ 各宿へのお知らせ



中山道410

＜今後の取り組み＞

◆中山道410年祭の提案

中山道410年祭まであと4年

◎記憶に残る中山道

- 昭和30年代の中山道写真
- 人々の記憶（温故知新）

◎にぎわいの復活

- 中山道410がコーディネーター役で

中山道410

中山道の活性化について
「中山道」パーク
(近江八幡市廣町町)

宿場つなぐかごかきレース 地図サイト立ち上げ 石碑建て「ミニ中山道」

中山道で地域活性化

街道沿いの活用方法探る 市民グループ



県内の中山道を活性化「発足」し、宿場のあった「た座談会を開いて街道のしよう」と、街道沿いの市「醍井(米原市)や鳥居本」活用方法を探っている。各宿場をつないだかごかきレースや誰でも情報が書き込める地図サイトの立ち上げなどを計画中だ。

このグループは「中山道410グループ」。東近江市や近江八幡市などの住民を中心に九人で四月に結成した。中山道沿いは、道路や住宅開発に伴い、石碑を壊したり、昔の家がなくなるなど風情が失われている。これまで街道沿いの愛知川(愛荘町)、鳥居本高宮(彦根市)、醍井、豊郷(豊郷町)の五カ所で座談会を開き、それぞれ住民約三十人が参加した。昔の地域の写真を見

ながら、住民は「観光客が立ち寄れる場所をつくりたい」「街道をテーマにした作文集を作ろう」などの意見を出し合っ

た。中山道に全体で六十九の宿場があったことになんて、川沿いに六十九の石碑を建てた「ミニ中山道」をつくることや、二〇二二年には中山道が整備されて四百年を記念した祭りを計画している。代表の三井直美さん(三井東近江市佐野町)は「取り組みが街道のよき見直しきっかけになれば」と話している。

(岡田幸治)

里山コミュニティ^{ゆめおり}夢織

里山資源と人々の交流の創造

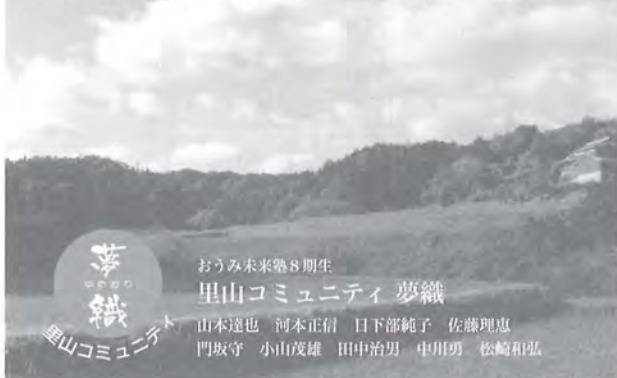
滋賀県の里山資源の特徴を「身近にある里山」「都市近郊の里山」と捉え、里山資源の価値や魅力を共感できる活動を通じて、環境保全や心が豊かであることの大切さを発信するコミュニティの誕生とその持続をめざします。

栗東市金勝・井上地域をフィールドに、里山に暮らす人々の交流、また、近隣の都市住民との交流の機会を創造し、自然への興味や畏敬、体験する意欲、人や物への思いやり、収穫の喜びなどを育み、日本人の「心の原風景」と「夢」を紡ぐ活動を展開します。

メンバー 門坂守 河本正信 日下部純子 小山茂雄 佐藤理恵
田中治男 中川勇 松崎和弘 山本達也



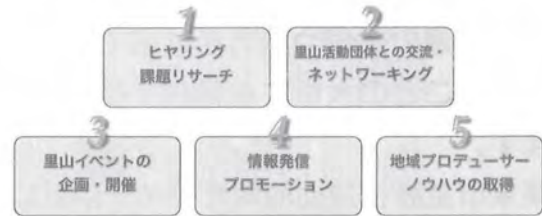
里山資源と人々の交流の創造



おうみ未来塾8期生
里山コミュニティ 夢織
 山本達也 河本正信 日下部純子 佐藤理恵
 門坂守 小山茂雄 田中治男 中川勇 松崎和弘

ミッション

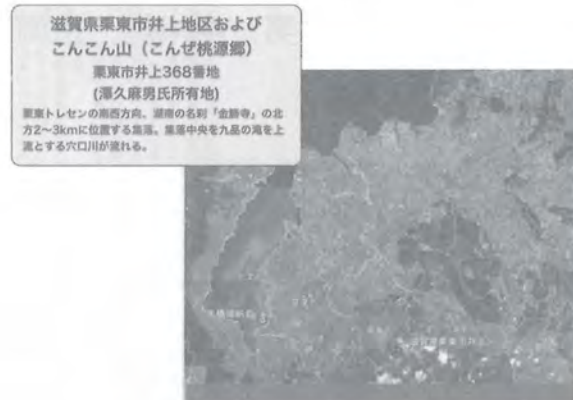
豊かな自然と文化、伝統に支えられた人々の暮らしが今も大切に受け継がれている滋賀県の里山地域をフィールドに、5つの活動目標を設定。



メンバー/活動推進ネットワーク



フィールド



フィールド/栗東市井上地区



フィールド/こんこん山 (こんぜ桃源郷)



活動

定例
ミーティング
毎週火曜日20時～22時 於:さんさん守山

1 **リサーチ**
(研究活動)
週年
ヒアリング
徒歩調査
アンケート調査

2 **イベント**
(創造活動)
11/24実施
近江兄弟社/森遊びプロジェクト
ふるさと富士サミット・スタッフ参加
里山保全活動
こんこん山の秋まつり

3 **プロモーション**
(宣伝活動)
週年
里夢だより (ブログ) 開設
こんこん山秋祭りチラシ

活動報告 - リサーチ -

【ヒヤリング】

			
2007年5月13日 金勝・井上地区 三園寺元住職 高田稔氏	2007年5月27日 金勝・威町 金澤恵美氏/青山幹夫氏	2007年6月4日 滋賀県立大学 野間直彦先生	2007年6月18日 上郷山自治会 金勝森林組合

【アンケート調査】

- ・調査方法：井上自治会「九品の友」、戸別訪問
- ・配布数：111枚
- ・回収枚数：69枚



活動報告 - イベント -

【近江兄弟社/森遊びプロジェクト】 2007年5月/7月・2008年2月
子どもたちとの里山など自然環境を舞台としたコミュニティ活動を実践



2007年5月22日 サツマイモ植え付け
2007年7月12日 体験学習(東東自然観察の森)
2008年2月22日 森遊び(こんこん山自然活動)

活動報告 - イベント -

【ふるさと富士サミット】

- ・実行委員会メンバーとしてメンバーが参画
- ・事前活動へのボランティア参加



2007年6月17日
京都新聞

活動報告 - イベント -

【こんこん山裏手を保全活動】

荒れたこんこん山裏手を2007年12月より保全活動



継続
実施中!

活動報告 - イベント -

【こんこん山の秋まつり】 2007年11月24日(土)開催

里山に暮らす人々の交流と都市住民との交流機会の創出



活動報告 - プロモーション -

【ブログ】



【メディア掲載】 ※こんこん山の秋まつり

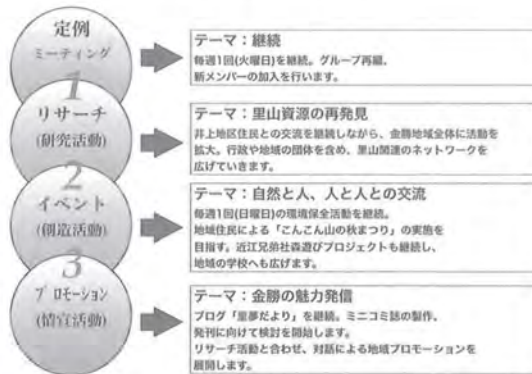


広報「りっとう」▶
2008年2月号掲載

助成金・補助金

- ・平成19年度
滋賀県
「みんなで始めよう森づくり活動公募事業」
 - ・平成19年度
財団法人淡海環境保全財団
「環境保全活動団休助成事業」
- に採択される。

今後の活動について



今後の活動について

里山に暮らす個人の想いや里山での
それぞれの活動をつないでいく役割として、
夢あふれる里山コミュニティが誕生し機能するまで、
我々の活動を継続させていこうと思っています。



メンバーメッセージ

- 滋賀がますます好きになった！
- 地域プロデューサーが少し見えてきた。(山本達也)
- 良き仲間ができました。全てよき体験でした。(河本正信)
- こんなにも話が弾む仲間たち・・・熱い想いの絆から。(日下部純子)
- たくさんの自然、たくさんの思いやり。そして、絆・・・。(佐藤理恵)
- 有意義な2年間！竹を切るのが上手になった。(門坂守)
- 里山の作業は楽しいの一言に尽きる。(小山茂雄)
- 森林・水質保全が地球温暖化を防ぐ。(中川勇)
- 「桃源郷 真白き夢につつまれて 池も棚田もいま春を待つ」(田中治男)
- 貴重な体験に感謝。滋賀のポテンシャル、面白い！(松崎和弘)



おうみ未来塾8期生

里山コミュニティ 夢織

山本達也 河本正信 日下部純子 佐藤理恵
門坂守 小山茂雄 田中治男 中川勇 松崎和弘



おうみ未来塾8期生研究グループ 里山コミュニティ夢織 活動の足跡

2008.3.2卒塾発表

	定例ミーティング	リサーチ活動	イベント活動	プロモーション活動
2007.1月	28 第1回			
2007.2月	12 第2回 22 第3回 28 第4回	18 澤九麻男氏		
2007.3月	9 第5回 13 第6回 20 第7回 27 第8回	21 琵琶湖博物館 牧野先生		
2007.4月	3 第9回 10 第10回 17 第11回 24 第12回	25 澤九麻男氏		
2007.5月	1 第13回 8 第14回 15 第15回 27 G懇親会	13 井上・三因寺住職 高田種氏 21 レッツ栗東 平田宇一氏 27 NPO地域通貨おうみ委員会 金澤恵美氏、金勝焼陶芸家・青山幹夫氏	22 近江兄弟社森遊びP・サツマイモ植え	
2007.6月	5 第16回 12 第17回 19 第18回 26 第19回	4 滋賀県立大学 野間直彦先生 18 上砥山自治会・森林組合 情報交流会	16 「ふるさと富士サミット」 湖岸マリーゴールド種まき支援 23 金勝・井上早朝ハイキング	ブログ「里夢だより」スタート! 随時更新・配信
2007.7月	3 第20回 10 第21回 17 第22回 21 G懇親会 24 第23回 31 第24回	アンケート考案・作成 26 井上アンケート調査(九品の友) 30、31 井上アンケート調査(訪問) 5、12 井上アンケート回収(訪問)	12 近江兄弟社森遊びP・自然観察の森体験	
2007.8月	9 第25回 28 第26回	井上アンケート集計・分析	秋イベント企画・プラン作成	
2007.9月	4 第27回 11 第28回 25 第29回	15 井上アンケート結果配布(訪問) 26 九品の友にて懇談	2 こんこん山環境保全活動(1回) 3 ツリーイング打合せ(高島) 13 ワークショップ音景色打合せ 14 こんこん山環境保全活動(2回) 16 こんこん山環境保全活動(3回) 22 レッツ栗東里山文化交流会 23 こんこん山環境保全活動(4回) 25 ツリーイング現地調査 28 こんこん山環境保全活動(5回) 30 こんこん山環境保全活動(6回)	「こんこん山の秋まつり」の広報 チラシづくり、MAPづくり プレス対応 etc
2007.10月	2 第30回 7 中間発表 9 第31回 16 第32回 23 第33回 30 第34回	井上訪問準備	4 こんこん山環境保全活動(7回) 13 こんこん山環境保全活動(8回) 16 ツリーイング整備作業 21 こんこん山環境保全活動(9回) 27 「森づくり交流会」出展参加 28 こんこん山環境保全活動(10回)	
2007.11月	6 第35回 13 第36回 20 第37回 27 第38回	4 井上全戸訪問、東坂、観音寺訪問 秋まつりチラシ&参加確認用紙配布 7 井上自治会役員会に出席・説明 17-18 参加確認用紙回収 22 上砥山自治会 ほか関係者訪問	3 近江兄弟社森遊びP・さつまいも収穫 4 ワークショップ音景色打合せ 11 こんこん山環境保全活動(11回) 22 秋まつり準備 23 " 24 「こんこん山の秋まつり」開催	
2007.12月	4 第39回 9 懇親会(忘年会) 11 第40回 18 第41回		9 裏山整備作業下見	
2008.1月	8 第42回 15 第43回 22 第44回 29 第45回	秋まつりアンケート集計、報告まとめ	6 裏山整備作業(1回) 13 裏山整備作業(2回) 20 裏山整備作業(3回) 27 裏山整備作業(4回)	
2008.2月	5 第46回 12 第47回 19 第48回 26 第49回	25 井上全戸訪問(報告とお礼)	2 裏山整備作業(5回) 10 近江兄弟社森遊びイベント下見 16 近江兄弟社森遊び準備・整備作業 22 「近江兄弟社森遊びP」イベント開催 24 「南部流域森林づくりフォーラム」発表	
2008.3月	2 卒塾式 11 第50回		2 卒塾発表	

アンケート調査内容・結果

- 実施時期 平成 19 年 7 月 ~ 8 月
- 対象地域 井上地区 (全 31 戸)
- 配布方法 地域婦人の集まり「九品の友」にて、及び、戸別訪問
- 回収方法 戸別回収

全 31 戸中 21 戸から回収 (111 枚配布、69 枚回収 回収率 約 62%)

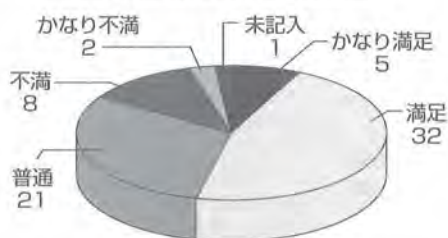
里山コミュニティ“夢織”



回答者基礎データ

- 男女構成は、ほぼ半々
- 全ての年代から回収できたが、70 才以上が 19% と最も割合が大きかった
- 居住年数について、先祖代々が 26%、30 年以上が 30% を占め、10 年以内が 13%
- 主な職業について、会社員が 30%、農林業は 10% であった

生活環境に対する満足度



☆私は 50 才代ですが、70 才以上の方は開発などにおいて頭が固い。もっと里山も開発利用すべき。

☆路線廃止など生活環境の衰退

☆自然に恵まれており、生活がしやすい

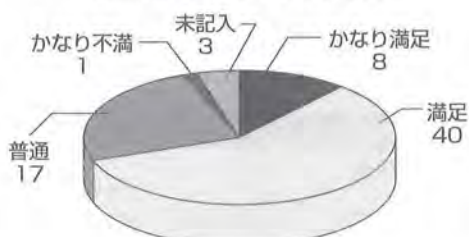
☆坂がいっぱいで生活するのが大変

☆交通が不便

☆車や移動手段があれば通勤や買い物などに便利なのに

☆車が少なく、子どもには安全だと思う

自然環境に対する満足度



☆月が照らす明るさは心を溶かしてくれる

☆豊かな緑があり、鳥の鳴く声が聞けてよい

☆夜は風が心地よくクーラーなしで快適に過ごせる

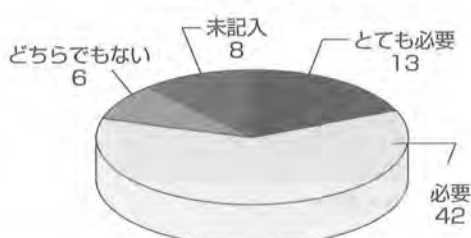
☆環境に合った生活の向上を考えたいと思います

☆子育てにはよいところです

☆整えば整うほど、自然破壊に繋がるので今のままでよい

☆川があり、水や木も沢山あるので、環境は栗東市内で一番よい

里山保全の必要性



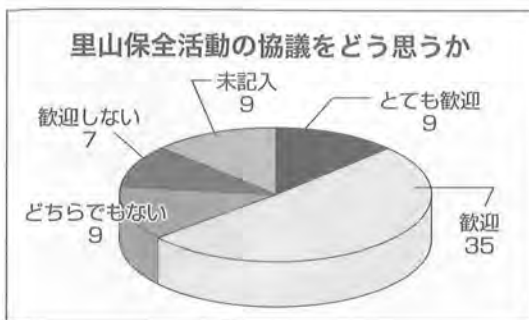
☆森(里山)は、歴史以前から自然への崇敬を人々に植えつけてきた

☆草刈をしてあると見た目がきれい。木も手入れが必要

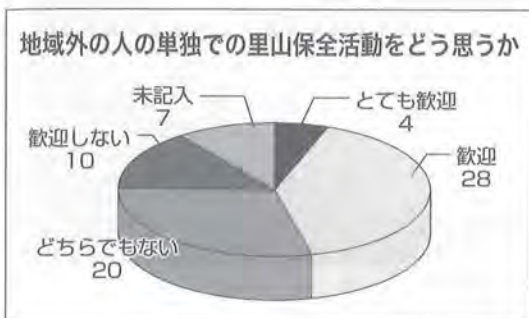
☆この風景を残していきたい

☆自然と人間が一体となれる

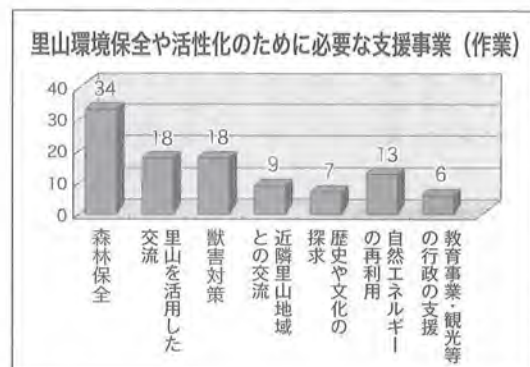
☆里山の保全は出来ていないと思います



- ☆現代生活に合うよう具体的な取り組みを
- ☆自分の里山は、各自がすべき
- ☆必要以上の歓迎はしない。夢と希望のある方のみ
- ☆地域の人だけでは手に負えない
- ☆他地域の人達と交流できるし、力も借りられる
- ☆よそ者が勝手なマネをしてはいけない
- ☆興味・関心のあるボランティアや協力がないと保全出来ない
- ☆利権問題で、無理と思われるが



- ☆どうも里山を荒らされる様な気がする
- ☆目的が生活と一体となっていないので、一時的には共通するが長続きしないように感じます
- ☆我々地域の者との合同作業が必要
- ☆自然を大事に思っても、ゴミを持ち込まれるのは困る
- ☆地域の考えがあるからこそ、保全の目的が達成できるのではないかと思う
- ☆悪用される可能性がある



《自由コメント》

☆田舎の人は、他の地域との交流があまりないせいか（地形的にも独立している）封建的なところがある。協調性がなく、みんなで何かをすることが年配の人はイヤな様で、また、常に隣近所のことが気になったり目を気にしたりする。年配の人の考え方を変えなければ、若い人が結婚してもここから離れていってしまう、育たない。もっと活気のある地域にしたい。まずは、気軽に声の掛け合える近所づきあいがない（協調）それから、考え直す必要があると思う。年配者のものの考え方が良い方向に前向きになってほしい。殻に閉じこもりがち年配者を外に出してあげたい。これからの井上のために

☆井上には夏祭りが無いので（前にはあった）、又、夏祭りがあってほしい

☆他の里山と比べると生活が安定しているため、どうしてもこの地域をどうこうしようとは思っていない。なぜ、この地域は昔から人が住み、今だにこの土地を離れないで生活しているが調査すると本当の里山環境保全はここにあるのだと感じると思います。例えば、山、川、谷だけではなく歴史文化がある。なぜ、この土地にあるか。寺、神社、又、遺跡が多いか「目的と夢、希望」が有る人達が集まった金勝族の里山であるからです。

里山の自然が宝

美しい地域です。この井上地域で、昨年11月24日、「こんこん山の秋まつり」が開催されました。会場となったのは、通称「こんこん山」と呼ばれる里山。地域の皆さんをはじめ、70人以上が自然の中で楽しい一日を過ごしました。

秋まつりを開催したのは、「里山コミュニティ夢織」の皆さん。NPO法人（営利を目的としない市民活動団体）や市民活動をサポートする「淡海ネットワークセンター」が地域プロデューサーを養成するために開催する「おうみ未来塾」8期生のグループです。グループは、素晴らしい里山を有する井上地域の可能性を信じて活動。地域の協力のもとで、アンケートの実施や住民の声を直接聴くなどして井上地域の課題を考えながら、里山の保全活動を行って来ました。

「まずは井上地域に住む皆さん

金

勝学区にある井上地域。ここは里山の風景が残る



▲里山は学びの宝庫（こんこん山の秋まつり）

CASE3.

まちづくり 市民活動団体が きっかけづくり

の交流をはぐくむことで、里山、自然環境保全やコミュニティに対する関心が高まればと思い、秋まつりを開催しました」と語るグループ代表の山本達也さん。秋まつりに参加した井上をはじめ、東坂・観音寺地域の子どもたちは、木につるしたロープを登るツリーイングなどで自然に親しみました。

「自

然から学ぶことはたくさんあります。里山は生産の場だけではなく、教育の場であり多くの人の交流の場です。この里山を生かして、夢づくりをしていきたい」と語る里山所有者の澤九麻男さん。「このような場所が地域にあるとは知りませんでした。活用次第でこんな素敵なイベントができるんですね。『灯台もと暗し』とはこのことです」と語る地

域の一人。秋まつりは、住民の皆さんが改めて地域を再発見する機会となりました。

「にぎやかな栗東駅前から20分ほど車で走れば、このような自然豊かな環境が広がっています。これは栗東市の財産とも言えるのではないのでしょうか。子どもたちをはじめ、違う環境に住む住民同士が交流できる機会が増えたら、いっそうまちが輝きます。今後はこの秋まつりを井上地域の秋まつりとして住民の皆さんと一緒に盛り上げていきたいですね。井上だけでなく、金勝一帯から里山の素晴らしさを発信していくことができれば、より地域が活性化すると信じています」と山本さんは語ります。

豊かな里山から、今、夢が広がろうとしています。



ツリーイングや竹を使ったごはん炊きなど楽しい企画が盛りだくさんの秋まつり。

PART4

塾生が語る 未来塾の学び

地域プロデューサーをめざして取り組んだ研究活動は私たちを個人としても大きく成長させてくれました。2年間の活動を終え、いま羽ばたく8期生がそれぞれの思いを記します。



氏名	荒木 威
所属グループ	こ・結



私を支え続けてくれた“想い”

未知への遭遇（挑戦）”

いまから数年前のこと。人生、2度目の周回へのスタート台に立ったとき、「これでいいのか…」という想いがつり、セカンド・ライフへの旅立ちを決意した。そして、「おうみ未来塾」の塾生募集を目にしたのがちょうど2年前。「地域プロデューサーを目指して」という刺激的なキャッチフレーズに魅せられて、私にとっての“未知への遭遇（挑戦）”に向けて、すでに動きかけていたバスに飛び乗った。あれから2年。卒塾を迎えたいま、過ぎ去った日々を振り返り、あらたな“未知への遭遇（挑戦）”をめざす糧にしていきたい。

ミスマッチを乗り越えて・・・

人生、時には、「行き先もわからないバスにも乗ってみるものだ」と、いまだからこそ、心の底から思っている。当初はこうはいかなかった。「こんなつもりでは…」という想いが幾度となく交差した。そのたびに、「自分なりに何かを掴み取って卒塾までがんばろう」と、何事もプラス思考でいくことに切り替えた。その結果、自分に足らなかったものを手にいれることができた、いま、しみじみと思っている。人生は、計算つくされた精緻な設計図より、ときには、行き先が不透明な迷路に足を踏み出す“冒険”も必要。私にとってのミスマッチを乗り越えて、私をひとまわり成長させてくれた「おうみ未来塾」に、ひたすら感謝してやまない。

忘れられない“ことば”。

あるセミナーでのこと。いまでも頭に刻み込まれた“ことば”がある。

それは…「他所者」、「若者」、「ばか者」の3要素が、いわゆる市民活動者と称される人たちの共通キャラだそうである。いい得て妙。有無を言わず納得させられた。もちろん、言葉どおり解釈して目くじらたてるのは愚の骨頂。

私なりに…

- ・ 「他所者」——客観的視点で、地域課題を発見する能力を有する者。
- ・ 「若者」——瑞々しい感性と情熱で地域課題解決に対応できる者。
- ・ 「ばか者」——地域課題解決のために、打算（損得）を超えられる者。

と受けとめた。決して忘れることのできない、そして、これからも、私を励まし続けてくれる“ことば”である。

氏名	石倉 憲治
所属グループ	里湖づくりヤット参人's



ポジティブシンキング！の精神

「おうみ未来塾」の「未来」という呼称の関わりには、現在私は他に2つもっております。今勤務している会社が「未来事業株式会社」であり、参加加入しているビジネスサークル（任意活動グループ）が「未来塾」という呼称です。「おうみ未来塾」を含めると3箇所の活動に関わっているわけです。過去にこだわらず未来を見据えての活動が今大切、その考え方はポジティブシンキング！という精神がそれぞれに共通していると思います。是非、おうみ未来塾の活動が今後ますます発展されていきますことを祈念しております。

私にとってのおうみ未来塾

私は現在、東京で専門学校の講師と経営コンサルタントをしております。おうみ未来塾入塾時は、地元の街づくりのアドバイザーであるタウンマネジャーを辞したときで、東京の仕事を残しながら地元滋賀県での地域社会に貢献する活動を考えていたときでした。滋賀県の広報誌を見て応募させていただき入塾させていただきました。早やそれから2年が過ぎ去り時の経過の早さに驚いている次第です。

私は2つの目標を持ち入塾しました。1つは「CSRの理解を深め、企業と社会の適正なコラボレーションのあり方を追究する」ことです。それには、現状把握が必要であり、各企業のその取り組み状況の検証をしなければなりません。公的機関である“淡海ネットワークセンター”を通しての調査なら比較的容易に活動が進められると思いに期待しておりました。

2つ目は「地域通貨の可能性を検証する」ことです。地域通貨については日本で10年ほど前に一度話題となった事があります。“エンディの遺言”というタイトルで本が出版され、ミハエル・エンディのことが紹介されたことがあります。NHKでもそのことが放映されております。経済学と言う学問における“地域通貨”は、現在の人類の最大課題とでもいえる“環境問題”を一気に解決することができる可能性を秘めている経済の仕組みなのです。しかし、現在日本各地で行われている、又行われてきた地域通貨の成功例は、ほとんど聞いたことがございません。このような現状においてなにがそれを阻害しているのか、その原因を追究し、そしてその可能性を研究調査することをあげました。

しかし、現在2年経過したのですが、何も果たせないまま卒塾ということになってしまいました。反省としては、やはり仕事を持ちながらの活動の難しさを感じております。またテーマ設定が大きすぎて2年と言うタームでは無理だということです。もっと絞り込んで具体的な目標で取り組むべきだったと反省しています。又、もっとスタッフの方々に相談するべきだったとも思っております。ただ、今後仕事がもう少し落ち着き時間の余裕ができるようになったときには、再度同じテーマで取り組んでみたいと思っており、今からそのことを楽しみにしております。

今後ともみなさま何卒よろしく願い申し上げます。

氏名	岡本 美奈子
所属グループ	こ・結



2年間を振り

いっしょに子育てサークルを始めた友人に「「おうみ未来塾」にいっしょにはいらへん？」とさそわれ申し込んでから、就職が決まり、しかも、友人は申し込まなかったことを知り、突然、子育て真っ最中の専業主婦から、社会人と母と、主婦の3足のわらじをはくことになりました。新たな出会いと、社会貢献の精神 etc... の何かが、学べたらと、何とかなるかなあ~という軽い気持ちで入塾しました。でもそのハードなこと。考えることも多く、感じることも多く。今の私の生き方では…無理だと感じた2年間でした。慣れない子育てと仕事と家事との両立、こなすことの大変さ、今の世の中に仕組みの不備、理不尽さなど、感じることもあり、声を出さないと、自分のできることをやっていかないといった大切なことを活動している人を見て、学びました。グループ活動では十分活動できず、申し訳ありませんでした。でも入塾して、フツウの生活では決して出会えない人との出会え、いろいろな考えに接することができたことは、私の人生において宝物です。今すぐに…活動することはできませんが、近い将来皆さんの様に活動できたらいいなと思います。

ありがとうございました。

氏名	小倉 久美子
所属グループ	こ・結



卒塾にあたって

未来塾に入塾して良かったです。入塾したから出会えた多くの人々とのつながりは私の宝物です。未来塾生は、卒塾生も含め、前向きに頑張っている人が多く、プラスの刺激をいっぱいいただきました。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

だがしや楽校

2年目のグループ活動として、こ・結グループが取り組んだ「だがしや楽校」は、私が新聞の記事を読んで、いつかできたらいいなと漠然と思っていた活動です。山形で始まって、世代を超えた交流の場、子どもと社会を結ぶ学びの場として今全国に広がりつつあります。一步を踏み出すことができたのは、「こ・結」のおかげです。メンバー同士が遠方な上に忙しかったため、定例の会議は開催できませんでしたが、月1回の「だがしや楽校」終了後に行った振り返りでPlan, Do, Check, Actionを繰り返しました。その結果、継続可能な今の形ができたことは素晴らしい成果です。

しかし、フィールドが仰木の里に決まったことで、私が頑張らなくてはと勝手に思い込み、突っ走ってしまった部分が多々あったことを大いに反省しています。私は、「地域プロデューサー」ではなく、現場で忙しく走り回っていました。卒塾の今になって気づいたことがあります。一番大事な種まきができていなかったこと、一緒に地域の課題解決のために取り組む仲間たちと“思いの共有”ができていなかったことです。話し合いの時間があまりに少なく、こ・結のミッション「三世代交流」の実現のため「なぜだがしや楽校なのか」という根っこ部分の突っ込んだ話し合いができていませんでした。話し合うことで、メンバーそれぞれの思いと重なり合う部分がきつとあったはずだし、メンバーの中で「思いの共有」ができていれば、その思いを地域の人にどう伝えたいか（種まき）と一緒に考えることができたのではないのでしょうか。

地域の課題解決のためには、地域の人に“思いを伝えること”が何より大切で、その思いを共有する地域の人何人が集まって始めて、地域を動かすことができるのです。

そういった意味では、湖国まるごとエコミュージアム「第3回たえあう交流会」にエントリーし、だがしや楽校が何を指しているのか、その思いを多くの人に伝えることができたこと、その結果「まるエコおおきに優秀賞」をいただけたことは、この活動を継続していくための大きな力になりました。焦るつもりはありません。1年間やってきた実績があります。今後は、機会を自分で作り、地域の人に私の思いを伝え（種まき）、思いを共有する仲間を増やしていく努力をしていきます。「だがしや楽校」は今の時代が必要としている活動であり、何より多くの地域の子もたちが楽しみにしてくれています。地道に継続しながら地域の大人たちが参加しやすい企画を検討し、さらにより良い形を模索していきたいです。

地域プロデューサー

私の考える「地域プロデューサー」のイメージは“種をまく人”です。地域プロデューサーは地域課題を見つけ、地域の多くの人に思いを伝えます（種まき）。そして、思いを共有する地域の人と一緒にいよいよ活動の準備です（土づくり）。活動が始まりました（発芽）。参加してくれた人が肥料であり、水です。参加の人々にも思いを伝えていきます（双葉）。思いを共有する地域の人を増やすことが地域プロデューサーの仕事です。思いを共有する人が地域に増えれば、地域プロデューサーがいなくても、地域の人々の力で茎はぐんぐん太くなり、太陽（目標）に向かって真っすぐ伸び続け、いずれ大輪の花（課題解決）を咲かせるでしょう。大輪の花には、多くの種（地域住民の思い）がいっぱい詰まっています。

地域プロデューサーの仕事は地域に根付くまでかなと思います。でも私は地域の人と一緒に大輪の花が咲くまで育てていきたいと思っています。

氏名	小野 森弘
所属グループ	里湖づくり ヤット参人's



未来塾で学んだこと

地域プロデューサーって響きがかっこいい、何か学びたい、身に付けたい、地域プロデューサーについて考えてもよく分からず、はっきりと分かっていないまま、気がつけば入塾していました。最初は未来塾では地域の課題を掘り起こし解決する手法や手順といったものを学ぶのかとも思っていたのですが、実際には、滋賀県や市民運動の活力、“地域に入る”ということを感じることが自分にとって大きな経験となりました。

地域に入るということ

活動を行っていく中で地域の人たちの自分たちが生まれ育ったところに対する強い思いを感じました。未来塾に入るまでも市民運動に関わってそれは感じていましたが、未来塾で活動する中で改めてより一層滋賀県の活力・地域の人達の思いを感じさせられたように思います。行政やよそ者に頼らず自分たちで地域の課題を解決しようとしている元気あふれる人達に会えたことは自分にとって刺激的で、滋賀県に来て良かったと心から感じました。また、2年目のグループ活動で実際に“地域に入る”ということを感じたことも他ではできない経験になりました。地域の人にとって自分達はよそ者で、無責任にいつでも出て行くことができる存在であり、地域の人のお話を聞いて地域の人々の目線になって考えること、活動に責任を持ち持続していくことの大切さを感じました。

グループ活動

今振り返ると、去年の3月グループ選択のときに迷いに迷って里湖グループにしたことが思い起こされます。それから1年がたち、今思えばこのグループが自分に合っていたと思います。議論好きなグループであり、はじめはフィールドでの活動はほとんどせず議論ばかりでこれから先どうなるのか不安でしたが、議論を煮詰めていったことで自分たちの思いや考えを整理でき、それぞれの活動の意味を理解しながら活動できました。いい意味で、マイペースで肩肘張らず活動してきたこともこのグループで続けてこれた理由だと感じています。今後は、大学院進学のため名古屋に行きますが、また滋賀に来て、里湖づくりの会や8期生のグループ活動に参加したいと思います。未来塾で、普段会うことができない多くの個性的で活気のある幅広い年代の人達と出会えました。将来の進路について相談に乗ってもらったり、雑談から家のローンの話まで、いろんな話を聞かせてもらいました。2年間至らないところも多かったと思いますが、ありがとうございました！

氏名	門坂 守
所属グループ	里山コミュニティ夢織



2年間をふり返って

2年近い塾生としての活動がようやく終わろうとしています。色々な所へ行き、色々な方と会い、色々な経験をした塾生生活でした。

1年目は県内のNPOへ訪問したり、講義を受けたり、合宿をしたりで新しい発見があったり、みんなと語ったり。今後の不安を抱えながらも楽しい時期でした。滋賀県にこんな色々な活動があることを目の当たりにした、それらに係わる人達の心の熱さに驚きでした。共通して感じるのは、まず自分がありきなのではなく誰かのために！の思いで活動されていることです。この思いがあるからこそ次へと向かうパワーが生まれるのでしょう。今の次代だからこそ大切なことですね。

2年目からのグループ活動では仲間と一緒に地域に入って活動をしました。今から思うともっと地域の人達と交流して出来なかったのかと感じたりしていますが、良い勉強が出来たと実感しています。イベントを行い多くの方に参加していただき成功できたと思っていますが、イベントの成功よりもそこまでのプロセスの方が大切だったと今になって理解しています。仲間と協力して知恵や思いを出し合いながら行動できたことは、私だけでなくみんなの財産になりました。

今になり一番感じるのは、じっとしては駄目だなあという事です。せっかくこの世に生まれてきて体と時間を与られているのですからそれをどのように使うか？なんだと思います。この2年間色々やってみたらそう感じます。地域プロデューサーを目指すためにはじっとしては駄目なんだなあと思っています。

人と関わり、自然とふれあうことで学ぶことは多いし、何より楽しいです。こんなことが人間としての基本的なのではないでしょうか？

氏名	鎌田 忠則
所属グループ	里湖づくりヤット参人's



私の思う地域プロデューサー

私は、入塾に際して提出を求められた「私の思う『地域課題』について」に、「地域の力を引出す能力を身につけるために、プロデューサー能力を養う」ことのために入塾すると書いています。そして、養成期間の2年間でその「基礎的な力」を身につけることを目標としていました。

さて、どうだったのでしょうか。「基礎的な力」とは何を考えていたのでしょうか。

それは主に「スキル」を想像していたようです。入塾前の私は、「地域の状況に合わせて、地域と琵琶湖の関りの循環的で持続的な関り方を模索し創造する」手立てを求めていました。その手立てを得るための「手法の技」「段取りの技」などを身に付けたいと考えていたようです。

しかし、1年目の学習活動で、講義を受け様々な取組を現地で見聞きした限りでは、そのような「技」らしきものを感じさせる取組はありませんでした。しかし強く感じたのは「執念」のような「思い」から、考え付くままに次から次へと取組んでいく「エネルギー」でした。そしてその取組のリーダー達に共通しているように思えるのは、強力な説得力とリーダーシップではなく、何か「仕掛」を考え作って、人々を乗せていく、その気にさせる、人の考えを変えてしまう「仕掛人」を思わせる人たちでした。その上仕掛を成功させるために、苦勞を生甲斐とする努力とコツコツとした長い時間が費やされていると云うことでした。手先の「技」ではなく、正に「業」、「為すべき仕事」ではないかと思えました。

この事は、2年目の研究活動テーマを選定するに当たって、私にとって大きな課題となり、「業」となり得るテーマをあきらめずに追求する事となりました。

もう一つ大きな収穫は、従来の自分の物を見る見方・考え方を解放して、感触を大切に課題とかテーマ、資源を求める姿勢が非常に大切だと言うことでした。社会的な様々な課題は、日常の生活や仕事、社会的活動で得られる情報で客観的な理解をしていますが、その本質に迫るとか本当の課題を見抜く切羽詰った事情や動機に乏しい事もあって、ほとんどその本質を見過ぎてしまいます。しかし、私が見た「仕掛人」たちは、普段当たり前で気がつかないところに注目し仕掛を施し光を当て、人々を感動させ人の考えを新たにして活気付かせていました。私には敏感に感じる触覚を活発に動かし、仕掛けて餌を捕える動物を感じさせるものがありました。

グループ活動

私達のグループ研究活動では、ミッションやテーマ、目標をもって活動しましたが、目標には及びませんでした。“感触”を大切に、地域と接触し地域も気がつかない地域資源や地域課題を、探し当てるべく活動をしてきましたが、まだまだその入り口に立てたかなと言う状況です。でもこれまでの活動で、活動の当初には思いも付かなかった「地域の想い」が感じられるようになってきました。その「想い」が、われわれの「思い」とどこか共通しているように感じました。

今後もおうみ未来塾の研究活動を、グループメンバーで立ち上げた「里湖づくりの会」が引継いで、掲げたミッション達成のため「水辺の学校」づくりを地域の協働の力で進めて行きたいと考えています。8期生をはじめオール未来塾の皆さん、応援をよろしくお願いいたします。

氏名	河林 利明
所属グループ	中山道410グループ



プロフィール

中山道410グループ、生活協同組合コープしが勤務、地域に根ざした活動を進めている生協の中で、「地域プロデューサー」を育てるこの“おうみ未来塾”に入って個人として成長が出来れば良いと思入塾しました。

2年間の活動を振り返って

あっという間の2年間。1年目の地域ごとの活動、2年目の研究テーマごとの活動、今まで滋賀に住んで30年、行ったことがない所にたくさん行くことが出来ました。またそこでの暮らしぶりやその地域での活動されている方々、いっぱい刺激を受けました。特に、中山道410の各宿で行った座談会開催において、人と人とのつながりの大切さ 難しさ、おもしろさを感じました。

今後の活動への思い

卒塾後も中山道410の活動を継続していきます。2012年の中山道410年祭を必ず成功させるように今から準備をすすめていきます。おうみ未来塾の活動で出会った方々とのつながりを大切にして、活動を進めていきたいです。

特に各宿での座談会開催後に再訪問が出来てない宿が多くあります。一度座談会を行っただけで終わるのではなく、継続した関わり合いが出来れば良いなと思っています。

また、番場宿には‘中山道を世界遺産に’との志を持ったユニークなかたもおられます。その方とも共に活動をすすめていけたらより楽しく幅広く活動が進むと思っています。

卒塾にあたって

2年前の自分と比べて今、自分の中で何が変わったのだろう。たった2年間、されど2年間。何かがパワーアップしているのは間違いない。このパワーアップした何かを自分のチカラに変えて地域に対して発揮していくことが求められている。今後の活動に自分でもわくわくしている。この思いを大切にしていきたいと思う。

最後になりましたが事務局の皆様にはお世話になりました。ありがとうございました。

氏名	河本 正信
所属グループ	里山コミュニティ夢織



ローカルに考えて、ローカルに行動する

私が企業市民から生活市民になり「地域社会に自分ができることから恩返しをしよう」の気持ちをもって市民活動しているときでした。

おうみ未来塾 第8期 塾生募集のパンフレット表紙の日高塾長の巻頭文の一説「…ローカルに考えて、ローカルに行動することが大切だ、地域で徹底してやってこそ、その話がグローバルになるのだ…」に共感いたし入塾申し込みさせていただきました。

さらに入塾式の日高塾長記念講義で「…集団で生きているのが人間という動物…集団で生きるということは基本的に大事なことだと認識して…」を拝聴いたし、その後の「塾生活動」・「市民活動」の原点になりました。

塾長始め運営委員の講義・体験学習の「学び」の1年間を終え、2年目の実践学習が始まりました。自然と環境を愛する仲間が寄りました。何回も何回も集まり『わいわい・ぶつぶつ・がやがや』がずーと続きました。ようやく春には「里山の自然・地域住民・子供」の想いが共感でき、ポストとメンバー構成が決まり現地活動が始まりました。

活動地域の住民とのコミュニケーションの良化を得る苦心・苦労は数々体験しました。物の調達とお金の心配もしました。夏山での慣れない雑草・雑木伐採作業は大汗と藪蚊との格闘でもありました。その作品が「こんこん山秋祭り会場」になりました。

ミュージシャンやツリークライマー、飯炊き・調理マンなど、仲間の口伝に助っ人がたくさん協力してくれました。

「こんこん山秋祭り」にはたくさんの子供や大人が参加して楽しんでくれました。お天気も味方してくれました。みんなみんな「里山の自然」が好きになり、みんなが仲間につながりました。

学園児童42の瞳とは「春の芋苗植え」から「秋の芋ほり」・「夏山自然観察」から「冬のこんこん山森遊び」までつながりました。

いつのまにか実践学習が本番活動になり、未来に向かって「こんこん山」に里山の夢が織られ始めました。

氏名	日下部 純子
所属グループ	里山コミュニティ夢織、 里湖づくりヤット参人's



一番印象に残ったフィールド研修

長浜の成功例 その根底にあったのは
伝統文化継承の必要性
その原動力は、
伝統文化継承の中で代々受け継がれてきた
人々の役割分担意識

一番懐かしい??食べ物



県立大学野間先生の紹介で
ジビエ料理初体験 !!
鹿を食べてしまった～～

少しビッタ体験

朽木の奥、O△イベント会場の入り口
木の柱に何故か、
古ぼけた雛人形が打ち付けられていた。
なぜ、雛人形なの?



楽しかった・・・ナー

「こんこん山の秋祭り」
最後に全員で竹楽器を演奏した。
全員の竹の音が一つになった時
嬉しかった。

地域プロデューサー・・・ (><)

まだまだ地域ディスカバーも満足じゃない
地域課題は・・・地域の人々とのキャッチボールから

ネットワークセンターの皆さん、
8期生の皆さん、
とてもいい経験を有難う。
これからも、ヨロシク(^ ^)

二年前、全くの初対面だった人達と
今は、肩肘張らずに同じ目的の為に
活動することが出来る。
きっとお互い、言葉にはしなかった
不平・不満があった事だろう。
一つひとつ事業をこなす内、
蟬りや、目に見えない壁が無くなり
今は、かけがえの無い仲間になった。
人の素晴らしさを沢山体験できた2年間
気付かせてもらった、学ばせてもらった・・・

2008年3月



氏名	小山 茂雄
所属グループ	里山コミュニティ夢織



1年目のショック

京都から滋賀県に移り住み、あるきっかけから、県の活動に興味を持ち未来塾に入塾させて頂きました。そこの多くの生き方、環境問題など、はば広く学ぶことが出来ました。子供の頃から山、川、海と自然に親しみながらきただけに、いろいろな思いに一つまれました。その中で自然は昔のような状況ではないことに強いショックを受けました。この時のショックが、そのまま2年目の里山と云う作業に入っても続きました。

里山に入ってみて

2年目のグループ活動は里山保全をする事に決まりました。里山に入っただけの感じは荒れていて手入れがされていない。つい20～30年前迄、田畑だった所がもうヤブになっている。この田畑を造るのに昔の人達がどれ程の苦勞をしたらろうと思うと、こんな状態で良いのかという思いが胸にせまります。私達の活動で出来る事はほんの一滴ほどのしづくにすぎないかもしれませんがこの一滴が大河となるかもしれない、それを夢みて今後も里山保全活動を続けたい。

終わりに

多くの先生方、受け入れていただいた地元の人々、事務局の皆様、そして良い仲間たちに感謝いたします。ありがとうございました。

氏名	笹川 勝
所属グループ	こ・結



おうみ未来塾の入塾と共に

2年間諸先生方・並びに淡海ネットワークセンターの皆様にご指導頂きありがとうございました。

私にとって淡海未来塾入塾は自治会の会長としての活動開始でした。従って自治会活動はび、お未来塾の活動と共にありました。活動のフィールドは目の前にありましたが如何に地域住民のためになり活動ができるか思案していました。

自治会では少子高齢化が進み世代間交流が少なく、地域の絆が希薄化しています。

自治会加入率も68%と地域活動に無関心になっています。何とかせねばと思っていたところに自治会長の打診があり、選出されました。私の自治会は世帯数470（自治会員320世帯）です。未来塾で学びながら地域プロデューサーとしての実践でした。

グループ活動

グループ活動では、たがしや楽校を開校・定着したいと熱い思いを語ってくれた未来塾生小倉さんに賛同して、この一年間グループ活動「こ・結」で活動させていただきました。

自治会でも現状分析からあるべき姿に描き、その達成の手段・方法に基づきプラン→ドウ→チェック→アクションを繰り返して現在推進しています。

地域社会の活性化のためには、一人でも多くの方が、できることから地域活動に参加してくれることを願っています。そして自治会のあるべき姿を推進すると同時に、プロデューサーの実践をしながら、次なる地域プロデューサーを育成・発掘するために活動を継続します。

蛸谷自治会活動のあるべき姿

住んで良かったと思える町

- ① ふれあいのある町
- ② 安全・安心な町
- ③ 環境・清潔な町
- ④ 文化・伝統の維持継続のある町



朝 スクールガード中の私

氏名	佐藤 理恵
所属グループ	里山コミュニティ夢織



夢織

この未来塾で出会えた仲間。そして☆里山コミュニティ夢織☆として活動できた事、本当に幸せに思います。真っ白の画用紙にそれぞれの色をのせて、一枚の絵を描き上げていくかのように、これまで私達と一緒に考えてきたことの大切さを改めて感じる事ができました。特に私がうれしかったことは、この活動のフィールドにしている「こんこん山」に私の学校の子どもたち、そして保護者の人たち、そして夢織メンバーで活動ができたことです。あの日のみんなの笑顔、そしてあの充実感は忘れる事ができません。こうして、みんなが集えたこと、そして、それぞれの心の中にある☆夢☆をこれからもみんなで分かち合い、紡いでいくことができたらどんなに素晴らしいことかと思います。自然を通してより一層、キズナも深まっていったと思います。



氏名	澤 哲男
所属グループ	こ・結



未来塾を振り返って

約2年間にわたり、事務局の方々や未来塾の皆様、大変お世話になりました。

地域プロデューサーという格好の良い肩書きに憧れ、地域で何とかもう少し役に立てる人間になりたいと応募させていただきましたが、私自身の職場環境が市町の合併によりガラリと変わってしまい、特に2年目は全く生活に時間的な余裕がない中で、塾生会を始めとした諸事業に全く参加できず、グループの皆さんには大変ご迷惑をおかけしました。

ここに深くお詫び申し上げます。

ただ私としては、正直申し上げ、こ結グループの活動や「だがしや楽校」にはあまり興味が持てなかったのも事実です。グループ分けて仕方がなかったものの、「地元学」など、もう少し自分の意欲の出る選択肢を選んだらよかったと、今さらながらに後悔をしております。

このような2年間ほとんど実績もなく、身についたものは何もない、私みたいな程度の悪い者は、地域プロデューサーなんてなる資格がないということが未来塾ではっきりしましたが、こんな人間が未来塾の数百人いる卒塾生の中に1人くらいいてもいいんじゃないかと、自嘲気味に2年間を振り返っているところです。

最後になりましたが、皆様方の益々のご健康とご発展をご祈念申し上げると共に、またどこかでお会いした折には気軽にお声がけをいただくようお願いいたしまして、卒塾のお礼の言葉にかえさせていただきます。

どうもありがとうございました。

氏名	異 優紀子
所属グループ	こ・結



今後取り組みたい活動とその思い

- とにかくチャレンジ行動する。
- 経験・特技を生かす。
- 子どもと接する活動
- 机上より現場
- 関西地域を観る
 - 京都しかできない活動（観光ボランティア）
 - 京都以外での活動（滋賀・大阪）
- 人脈を作る。人との出会いを大切にす。

卒塾にあたって

仕事以外になにか、自分にできることを残したい、就職してから少し離れていたボランティアを復活させたい、京都以外を知りたいと言う思いが入塾の動機でした。

しかし、三交代の仕事との両立でなかなか活動に参加できませんでしたが、ミーティング等に顔を出すとグループの皆さんや8期生の皆さんに温かく迎えて頂きとても感謝しています。

おうみ未来塾に参加して、自分のこれから取り組みたい活動が見えてきました。

これからも。自ら行動し、地域に貢献し、経験を積んで行きたいと思っています。

氏名	田中 治男
所属グループ	里山コミュニティ夢織



未来塾での2年間

1年目は、サブ講義などを通じて、様々な苦勞をしながらもバイタリティ溢れる活動を展開されている人達に出逢い、自分も少しは世の中の役に立ちたいと思った。しかし、サラリーマン生活の悲しさで時間が思うに任せず、参加できずに歯痒い思いをしたことが度々あった。

2年目は、「里山コミュニティ夢織」に加わって、地元自治会との交流や「コンコン山の桃源郷」づくりに参画した。グループ結成当初から、「子ども達に里山（ふるさと）の原風景を見せてやりたい」気持ちが強かったが、ようやく実現できて本当に良かった。

未来塾で学んだこと

開講のとき、北村先生から「3つのT」のお話を伺った。

①テクノロジー（技術） ②タレント（人材） ③トレランス（寛容）であったが、私は今回のグループ活動を通じて、③「寛容」の重要性を再認識することができた。

その一つは、里山活動の拠点にしていた自治会の皆さんである。当初、我々の呼び掛けに対してある種の冷やかさ、他町の者に入られたくない…というような雰囲気が強かったが、アンケートや秋祭り案内等の活動を通じて、空気が随分和んできたこと。あるいは全く正反対に、当初は非常に好意的と思われたのに、後半には極めて厳しい言葉を投げかけられたこと。多分何かの誤解と思うが、このような反対の感情を持つ人達に対しても、共感をもって受け入れる度量が必要であること。

二つ目は、チームワークである。グループのメンバー9人が豊かな個性と特徴を持ち、又時間的な条件も異なって、運営に行き詰まりを感じた時期があった。そんな時、リーダーはじめメンバーは決して強制にならず、諦めず、気長に、自主的に実行する姿勢を貫いたこと。これは簡単なようで非常に難しいと思うが、結果として、メンバー全員が夫々の収穫を得て晴れやかに卒塾できることは、何とも嬉しいことである。

「寛容」を教わった先生や事務局の方々、それに素晴らしいメンバー達に改めて感謝したい。

これから・・・

コンコン山。我々が雑木を切り草を刈り、そして子ども達がツリーイングやドームづくりに歓声を上げたこの広場。真っ白な雪の下では、着々と春の準備が進んでいる。

地元井上自治会は勿論、更にネットワークを広げて、前回とは一味違う秋祭りを実現したい。

良きメンバーと共に、この活動の着実な発展を目指したい。

桃源郷

真白き夢に包まれて

池も棚田も

いま春を待つ



氏名	中川 勇
所属グループ	里山コミュニティ夢織、 中山道410



未来塾で得たもの

私は、地域経済団体で「まちづくりについて」産・官・学等の委員会と議論し、まちづくり、産学振興、観光の3点にわたる基本構想を策定した。これらの実行にあたって重点事項は新設された広域道路沿線のまちづくりが優先で整った町の形成であった。

しかし、現在では個人住宅やアパートが建ち、まちづくりに馴染まない沿線になってしまっている。大型店が郊外に出店し、中心市街地は疲弊し、シャッター通りとなっている。まちづくり三法は中心市街地での大型店の募集を原則としているにも関わらず、現在建設中の二市の郊外の大型ショッピングセンターは商店街にとって計り知れない影響をもたらす。このようにまちづくりに関心を持っていた時に「未来塾」のことを知り、参加して商店街の活性化やまちづくりに何らかの貢献ができればと思い2006年6月に第8期生として入塾した。

私にとって未来塾は期待と不安があり、未知との遭遇であったが、広汎な知識と素晴らしい感性を持った人達と出会い、対話や議論、フィールドワークや懇談も場を通じて、親しく語り、多くの人たちとのネットワークが得られたことは大きな財産であった。

卒塾にあたって

私は「里山コミュニティ夢織」に参加した。金勝の澤九麻男さん所有の里山をフィールドとして人と人とのふれあい、コミュニケーションを創造することをテーマとして活動を始めた。里山というイメージは、都市域と原生的自然との中間にあって、地元の人たちの日頃の努力によって環境が形成されてきた地域であって、集落を取りまく二次林と、農地、ため池等で構成されている。里山に入ると自然に恵まれた郷愁をかきたてられることからいつもこの歌が浮かんでいた。

- | | |
|--|---|
| <p>一、兔追いしかの山、
小鮒つりしかの川、
夢は今もめぐりて、
忘れがたき故郷。</p> | <p>二、こころざしをはたして、
いつの日にか帰らん、
山は青き故郷。
水は清き故郷。</p> |
|--|---|

これは故郷を忘れるなというメッセージと受け取れる。今はどこの里山もシンボルであったアカマツとツツジは減少し、マツタケも採れなくなり、いたるところに繁茂したキキョウ、ナデシコ、オミナエシなどや生物は絶滅の危機にさらされるようになっている。里山の利用形態を変えて、土地開発がされてからは、各地で里山保全運動が行われている。里山は保全していかなければならない。

地域プロデューサーに求められること

地域プロデューサーは、地域の人達と地域の課題を見つけ互いにコミュニケーションを取りながら地域とともに活動を構築していくことである。また、素晴らしい自然を守り、近年、景観の見直しや自然とのふれあいを求める場とした里山は注目されている。本格的な整備をする場合には、定期的な手入れや活用が不可欠であり、未永く取り組む覚悟が必要である。私は、持病の腰痛と他の行事も重なって十分な活動ができなかったことが残念である。しかし、こんこん山の竹林が無秩序に拡大して田や里山林を覆ってしまった竹を切り取るのに、雪の里山でメンバーと汗をかいて力を合わせて作業ができる喜びと達成感にひたることが出来た。また、イベントまでの準備段階では意見対立や、議論を交わしながら纏め上げたプログラムに、メンバーの地域への熱い愛着とこだわりによって、全てのミッションは達成することができた。

私は、地域プロデューサーとしての資質はまだまだだと思うが、今後もまちづくりや地域活性化に関わっていきたいと思っている。今から思えば短い2年間であった。これはひとつの通過点であるが、この後どのような形で活動を続け発展させていくかが課題であると思う。いずれにしても地域に貢献できるように切磋琢磨していかなければならないと思っている。淡海ネットワークセンターのバックアップに感謝し、8期生のみなさんと今後のノミ・コミュニケーションを期待しています。

氏名	西沢 久夫
所属グループ	中山道410



勝手な思い込みで入塾

2005年2月からの4年間、就職浪人（フリーター）での生活を覚悟したため、何らかの情報を得られると期待しておうみ未来塾生に2006年3月に応募しました。月一度程度の勉強会に参加して、さまざまな講師から情報や知識を得ることが出来ると身勝手な想像をしていました。入塾のオリエンテーションを受けて、未来塾の運営にしばらく戸惑うこととなりました。塾生会やグループによる研究（活動）が中心であるのは、自己負担が年間1万円では当然です。多くの著名な講師やコーディネーターをお願いするのは虫が良すぎます。

またしても5月危機

あー、34年前。やっとの思いで入学した大学で、またもや苦手の英語や第2外国語の勉強をしなければならぬのかと思うと、学校へ行く気が失せ、アルバイトとマージャンばかりを続ける生活を送り、留年をしてしまいました。大学に期待ばかりして、自分がなにをやるのかを見失っていたのだと、今なら冷静に反省できるのですが。

34年後の2006年6月10日の入塾式は、滋賀県知事選挙告示の5日前。フリーターのつもりだったのに、いつの間にか選挙スタッフになっていたものですから、歓迎レセプションもそこそこにして選挙シフト。選挙スタッフというのは、常識を超えたもので、すべての生活が選挙一色で埋め尽くされる世界です。34年前は、自分の身勝手な思い込みで学校に行くのが嫌になったのですが、34年後の入塾前後の状況は常識を超えた生活にのめりこんでしまったから、未来塾のスタートでつまづいてしまいました。いずれにしても、スタートにつまずいたことに違いありません。あの時は、「5月危機」に陥ってしまった、と自嘲していたのですが。

中山道410が手を差し伸べてくれた

入塾式後、しばらく顔を出していなかったなかで、テーマ別グループ分をするという話を聞いたとき、中山道のことを考えたいというグループがあることで、僕がかかわれるのかこれしかないという極めて消極的な動機で、中山道410グループに入れていただいた。旧八日市市（現東近江市）に住む僕には、東海道より中山道に親しみがあつた。それに、表街道の東海道より、陰のある中山道という方が僕にはなじみそうだ。グループに入りたいとお願いしたとき、喜んで受け入れていただいたメンバーに感謝しています。

しかし、僕がこれほど「口だけ」の人間だったとは想像されていなかったでしょう。

活動できる場面を作ってもらった

5年通った大学で歴史を学んできたつもりなので、古い街道のことには少しばかり興味があつた。宿場のこと、「助郷」「本陣」など懐かしい歴史用語にかかわれる機会ができたこと、何とか宿場の面影を残してほしいと思うことなど、興味が尽きない。実際、宿場での昭和30年代の写真を見て語り合う「昭和ショー」では、貴重な宿場町の面影が残っている写真を見ることができた。その思いは、当日参加した地元の人たちにも共有できていたと思う。後は、それをどう現代に残し、未来に引き継ぐかだ。

政治家を職業としたい僕にとって、過去からの貴重な生活様式や風景などの文化遺産を未来に引き継ぐことは大切なことだ。そのためには、まず、それら文化遺産を保存しなければならない。また、そこに住む人たちが、その機運を盛り上げていただかなければ、単に遺産として残すのでは、魂がないものとなる。

各地の宿場町で「昭和ショー」を開催した中山道410のメンバーとして活動できたこと。僕にとっては、密接に自分の志（政治）に結びつくかわりを作っていたらいいと思つている。

改めて、おうみ未来塾、そして何よりも「口だけ」の人間を仲間として扱っていただいた中山道410のメンバーに感謝します。

中山道410年祭では、主催者の1人として参加できるよう、これからの1年間を悔いなくすごしたいと思つています。

おうみ未来塾でかかわっていただいた皆様のご活躍を祈念して文を閉じます。

氏名	古脇 ひとみ
所属グループ	こ・結



未来塾を終えて・・・

未来塾で学んだ2年間は、長かったような、短かったような…。

地域で活動することの難しさ、プロデューサーの難しさ、たくさんの人が協力しあうことの難しさ、たくさんの壁を感じました。

もちろん、自分自身の未熟さはひしひし。

たくさんの出会いもありました。

人、伝統、環境、つながり、地域、自分のテーマに大切に取り組むたくさんの人と語り合い、たくさんの想いを吸収し、自分自身、少しは成長できたかなと思う部分もあります。

いつの日か、プロデューサーとしてデビューできればいいなあと思います。が、今しばらくは、地域のアシスタントディレクターのような役割に、楽しみながら取り組んでいけたらと思っています。



ありがとうございました。

氏名	星加 満久
所属グループ	中山道410



取組みテーマ

中山道410年祭を企画しよう、そのために、中山道の学習を、宿場の人達と話し合いを、中山道沿いの市町村担当と話を、近江中山道宿場のまちおこしをしよう、など沢山のテーマが各人から出てきました。それを全部計画書に書いて、どれも一斉に進行出発となりましたから、何をやってもよい面白い活動ができました。

グループ活動

グループ構成員は色々ですから、誰が何をすべしと言う最初からの役割がなかったけれど、その場に応じて担当が決まり、一丸となって事業達成をすることができました。場面に依りて誰もが主役になれたのは、テーマ進行を共有化できていることが要因でした。事前計画発表、活動計画発表、中間発表、成果発表を毎回異なるメンバーが発表担当できたのもその表れでした。メーリングリストは情報共有のための大きなツールでした。

まちの人々

活動の主役は町の人達でした。我が町を愛する気概があふれていて、私たちの小さな発火で、大きな活動につながりました。町の人だけでは遠慮しあっていてできなかったことでも、私たちの触媒作用が有効であったことを知りました。今後の活動の大きな手本になりました。

地域プロデューサー

滋賀県では多くの自発的な市民活動が活発に行われていて、日本では先進県であるということを実感しました。その人達から教わったのは、町を、地域を、子供を、老人を、琵琶湖を、里山を、樹林を、湖魚を、水を、街道を、古民家を、愛することが活動の源泉になっていることだということでした。地域プロデューサーに大事なことは、愛するものを皆さんに伝えて、愛する輪を広げる働きかけをすることと理解しています。だから、私の愛するものを棚卸ししなくては。

中山道410年祭

これは実現したいです。そのための新組織作りや、経済的な手当医の活動も含めて、活動の輪を広げていきたいです。

今後のテーマ

住まいする我が町の人々の、高齢化すること甚だしくて、活気がありません。塾活動の成果は我が町に持帰って実践してみようと考えています。

氏名	本田 忠光
所属グループ	里湖づくりヤット参人's



入塾にあたって

私は、地域づくりと言うのは、行政が手を差し伸べてそれを元に地元自治会が地域づくりを行うものと思っていました。

しかし、入塾の資料を見て地域プロデューサー って？ 地域コーディネーター って？ 地域づくり って？ 地域活性化 て？ 地域・地域…… という多くの疑問と興味から未来塾へ入塾しました。そしてその中から、地域が自らががんばっている姿をこの目で見てみたいという気持ちが大きくなりました。

2年間の活動から見えてきたもの

研修活動から自分自身が変わったというのは、地域を見る目に変化があったということです。今まで、何気なく見過ごしていた風景が地域資源となることや課題があるでは、と気付く目を養われたのではないかと思うようになりました。と言うのは、これまで琵琶湖岸や田園地域、山間地を車で走ったり、歩いたりしても特に感じなかったことが「地域資源となるものは何かあるかな」という気になるようになりました。このことは、自分のこれからの未来にとって大きな財産となると感じています。

もう1つは、大きな目的であった、自分の住む地域を愛し、何時までも残していこうとする姿をみることで、地域のちからを自分の体で感じられたことであります。活動を通して、家族を愛する人、自然を愛する人、地域を愛する人、未来に期待する人、未来を自分で約束する人、地域資源を次世代へ残そうとする人、自然を先祖からの預かりものとして次世代へ繋ぐ人……たくさんの人々の姿を見ることができました。

さらに、もうひとつの大きな成果としては、人生観を変えるような人たち仲間と出会えたことこれが大きな自分へのエネルギーの素となったことでした。

最後に

あっという間の2年間でした。しかし、今振り返ると、めまぐるしく内容の濃い2年であったと思います。自分自身のスキル及び心の持ち様が変化したと自分でも分かるくらいで大変有意義であり大きさに言うと人生観をも変えるものであったと思います。

仕事に関係ない、今まで自分の周辺にない仲間が増えるということの嬉しさは大きいものがありました。これからの生活の中に未来塾で学んだ先生からの言葉、仲間から受けた言葉や気付きを何時までも大事にしていきたいと思います。

ありがとうおうみ未来塾。

最後に、2年間塾活動を行うにあたり、理解をいただいた職場の皆様がこの場をかりて感謝いたします。

氏名	松崎 和弘
所属グループ	里山コミュニティ夢織



私にとってのおうみ未来塾

滋賀に住んで約20年。一時の住処とっていたのが、永遠の場所に、そして、滋賀で仕事もするようになりました。そんな「滋賀」をもっと知りたい！そんな動機で参加した「おうみ未来塾」でした。

参加して、色々な事が自分にとって勉強になりました。

やっぱり滋賀には素晴らしいものが、まだまだ沢山あります。

そして、その素晴らしいものは綿々と人々によって守られ伝承されてきたものである事を実感させていただける機会も多くいただきました。

2年目のグループ活動では、地域に入る事の難しさ、大切さも実感。

仕事が忙しく、グループのメンバーに甘えた所も多々ありました。懐の深い仲間感謝です。

2年間の活動を通して学んだ事を、自らの生活に、又仕事に生かし、身近な所から自分たちが暮らす「滋賀」を見つめつけていきたいと思えます。

会社で運営する「滋賀咲くブログ」には、そんな素晴らしい滋賀の情報が沢山アップされます。記事数は8万を超えました。この滋賀の集合知を地域づくりにどう生かして行くのかも私のテーマです。

自分たちの住む場所だから、素敵な場所をいつまでも次の世代に引き継ぎたい……。

簡単ですが、卒塾の言葉とさせていただきたいと思えます。

運営委員の先生方、淡海ネットワークセンターの皆様、講義を通じお世話になった方々、そして8期生のみなさん、里夢の同志！

ありがとうございました！

氏名	三井 直美
所属グループ	中山道410、 里湖づくりヤット参人's



未来塾での思い出 ～グループ決め～

グループを決めるときにとっても悩みました。いろいろ考えたのですが、決め手となったのは、

- ・ 普段行っていない分野での活動
- ・ 一緒に活動しておもしろそうなメンバー

ということ。

これが、とっても良い選択になったなあと思います。グループ活動の中で、新しい発見がたくさんありました。

中山道410の活動を通して…

- ・ いろいろな年代・職業の人と一緒に活動をして面白かった。
ミーティングでもイベントでも、普段のグループとは全然違って、いろいろありました。想いがすれ違っていたり、うまく時間が調整できなかつたり、意見がぶつかつたり…。
- ・ 地域の人たちとの出会いも発見が多くありました。
熱い思いを持っているひと。新しいことは受け入れたくない人。行動力のある人。いろんな人と出会い、お話しすることができました。
- ・ 和菓子をたくさん食べました。おいしさ発見！大好きになりました。

学んだこと

- スケジュール管理：うっかりしていると全部未来塾で埋まってしまう！
大事なことは→・優先順位をつけること。
 - ・ 無理な時はきちんと断ること。
 - ・ やるといったら最後までやること。
- 自分の役割探し：リーダーとは肩書きばかり。自分にできることを見つけました。
得意なこと→・こまめに連絡・調整をすること
 - ・ 記憶すること
 - ・ 緊張をほぐす。休憩タイム。ふざけ役。

今後について…

卒塾後は、大好きな滋賀県を離れることになりました。どこにいても、このようなつながりを作っていきたい、大事にしたい！と思っています。

氏名	山本 拓也
所属グループ	中山道410



おうみ未来塾に応募して

職場で紹介されたおうみ未来塾は、町の合併後それなりに忙しい日々を過ごしていた私にとって突然の話だった。2年のプログラムと聞いて続けられるかどうかの不安もあったが、地域プロデューサーという言葉に興味を覚え応募を承諾した。ところが、応募論文の段になって市民活動という言葉の意味すら分からない自分に気づき、場違いな感覚がふつふつと沸いてきた。その一方で、新興住宅地の自治会化や外国人へのサービスなど職場で日々直面している問題が、ひょっとすると地域課題と呼べるのかもしれないとも思い始めていた。応募動機を書き進める中で、私はなにより、そんな自分の意見を聞いてもらう場を探していたことに気づいた。まちなも、自分も、変化するにはその可能性を与えてくれる場が必要なんだ、そう思ったときこの世界に飛び込む決心がついた。

2年を振り返って

2年前、多くの不安を抱えながらこれから一緒に学ぶ個性的な30人余の仲間に出会った。メンバーの中に行政で働く者は圧倒的に少なく、私がよく知る研修とはまったく違うと感じた。今から思い返すと、この頃の私は行政職場からの参加者であることを強く意識していた。緊張のために溶け込めないゲストのような存在感を思い出すと、変な般にこもっていた気がしておかしい。そう考えると、私の身を置く立場はこの2年間の経験で大きく変わったのである。

最初の1年は事務局の主導による講義が中心であった。メンバーとは一緒に時間を過ごしながらか次第に親しくなり、フィールドワークでは現場で活躍する多彩な人々と出会った。いま講義の回を追ってみると、よくあれだけ議論をしたものだと今更感心する。私がかこれまで経験してきたディスカッションは、よく知る者が互いに共通するテーマについて話し合うものだった。ところが、ここでは塾の運営を始め最初からまったく何も決まっていないのである。お互いの立場を明らかにし、課題を見つけ、議論の方向を決めていく作業は、メンバーが集まるごとに徹底して繰り返された。山村活性化や観光の町おこしなどフィールドを重んじた講義内容に心躍らせていたが、実は活動の中身はこの議論であったとも感じる。

特によく意見をぶつけ合ったのはグループ研究テーマの決定作業だった。このとき大勢で議論しては進まないとの理由から、メンバーを代表する世話人会とメーリングリストが活躍した。スケジュールや欠席者のフォローなど細かな点まで決められたおかげで、塾生会では時間を浪費することを避けられた。それにしても意識が高いメンバーの意見をグループ化していくことは大変な作業であった。グループ決めは、後半1年間をその研究に費やすのだから当然力が入るし、自分が描いた研究テーマになればいいとも思う。グループ研究の1年を無事終えた今、多くの貴重なテーマが淘汰されたことは今でも忍びないが、私はテーマだけが成否を分けたとは思わない。どれだけ自分が積極的に、創造的に主体と関わったかが評価されるべき重要な点だと思う。これまでの議論の軌跡は私に大きな自信を与えてくれた。

私がかこの塾で得たものは計り知れないが、中でもひとつを上げるとしたら、それはひたむきさである。課題に直面したときに最初から無理だと言わず目的に向かっていく貪欲さを私は目の当たりにした。多くの出会いとともにこれからの私の貴重な資産になっている。地域への貢献と聞かればまだまだ先に感じるが、私はいま、課題に立ち向かう地域プロデューサーとして一步を踏み出す機会を得たことに感謝したい。

氏名	山本 達也
所属グループ	里山コミュニティ夢織



プロフィール～おうみ未来塾へ

思えば、人生の半分以上の時間を「地域」との関わりの中で過ごしてきた。その間、自分を支えたものは「音楽」と「周りの人々」の存在であったことは間違いない。公立文化施設（栗東芸術文化会館さきら）の立ち上げのために自治体職員になった。その後現場に残るためにその職を辞し、さらに指定管理者制度の一波は押し寄せたが、現在も創造の現場に身を置いている。

「地域」と「文化」、その間で自らを「地域プロデューサー」と称していた。人々の日常生活にあるすべてのことが「文化」であり、その基盤が「地域」であり、「地域文化」の活性化や新たな創造をプロデュースする「職種」としての肩書きであった。職種は同じでも、公務員を辞めた時、そして指定管理者制度導入の混乱時以降、「地域」に対する自分の意識は大きく変化してきたように思う。多くの自治体職員（公務員）は、公的施設の中での事務仕事そのものが公務員たる仕事だと解釈している。実際その環境下では誰もが「お役所人間」にならざるを得ないのだが、その外側に広がる「地域」に対し、市民の感覚と目線でもって対峙できる人が昨今ほとんど少なくなっているように感じるのは私だけだろうか。

おうみ未来塾への入塾を決めた背景にはそのようなことがあったと思う。「地域文化の創造」とはどのようなことか。「地域をプロデュースする」とは何をどうすることか。そもそも「地域」とは何なのか。年齢や考え方の異なる様々な人との出会いを求め、自分の今後の歩みへのヒントを求めて参加した。

2年間を振り返り

1年目の講義では、県内いくつかの地域を訪れ、個性豊かな滋賀の素晴らしさを具体事象とともに知ることができ、また自分の住む地域の特性も再認識できた。

2年目の研究グループ「里山コミュニティ夢織」は、そんな地域課題の共通項を多く持ち、日常的な対話を密にすることを考え、生活圏が一致するメンバーで編成された。週1回ペース、年間50回を越える定例ミーティングを行った。回り道に近い議論も多かったと思うが、それがあったからこそメンバー間の個別理解も深まり、認め合いながら共通の目的に向かい、最後までメンバーが減ることなくやり通すことができたと思う。メンバー全員の関わりを成果として表現できるようにする。このことは最初に強く思ったことだったので、そのための活動内容や目標も意識して設定していった。着目した素材は「地域の里山資源」。全国的にも危機に直面している日本の原風景「里山」を地域の資源として捉え、地域コミュニティの復興（あるいは誕生）を働きかけていくことを研究テーマとした。環境保全そのものやその活動を通した生涯学習を目的としているグループとは区別し、いかに「つなぎ手」としてマネジメントできるか。山作業のスキルを学び、よそ者として地域に入る経験をし、まず地域の方々に認めていただくことがこの1年の目標となった。

地域の全住民アンケートを各戸訪問して行った。年代・年齢によって考え方の相違があること、警戒するよりも歓迎する意見が多いこと、などが印象である。アンケートの配布、回収、集計結果の配布とイベントの告知、イベントの参加確認、1年間のお礼、と計5回の各戸訪問を行った。最後には顔を覚えていただき、激励もされ、具体的なクレームまで聞くことができた。「うちの山も頼みたい」「本当は地域で考えること」などのコメントをいただき、感慨深かった。

秋のイベント「こんこん山の秋まつり」は、1年目として地域住民限定にした。会場整備と環境保全のため9月からは毎日曜、山に入った。「ツリーイング」を紹介することもでき、地域にとっての里山の存在を再認識していただく契機となった。2年目以降は、地域の方々とともに創り上げるイベントにしていき、いずれは地域の秋まつりとして定着し、交流の輪が広がっていくことを願う。ここに新たな「地域文化」が生まれるのでは、と思うのである。

「里山コミュニティ夢織」は継続する。新たな課題とともに大きな喜びも待っていることだろう。培った「未来塾スピリット」や「ノウハウ」、「出会えた人々」の存在は、自分の今後の歩みの「原動力」や「道しるべ」になり、自分を支えてくれることは間違いない。

氏名	吉田 栄治
所属グループ	中山道410



おうみ未来塾への入塾動機…

- ・定年後のある日、行政関係者よりおうみ未来塾塾生の募集パンフレットを頂き内容をみると「地域プロデューサー」を目指す人が集う塾です。あなたも新しい地域課題に取り組む魅力あるリーダーに…と記されておりました。
- ・丁度その頃「白鳥川の景観を良くする会」を立上げ（2006年2月）で間もない頃で、今後の活動に少しでも勉強になればとの思いで参加申し込みの論文を書いて申し込みました。

おうみ未来塾の「基礎実践コース」と「創造実践コース」…

- ・最初の1年目は運営委員先生方の講義やモデル的な福祉や環境、街づくり等の活動されている個人や先進団体等のお話しや視察を通して、「地域プロデューサー」としての幅広い見識や異業種交流の大切さを痛感し、今までの自分の生き方ややり方に深く反省させられると共に将来の活動姿勢にとても勉強になりました。
- ・2年目はグループ活動で「中山道410」メンバーで約5年後に迫った中山道410年祭を目指す提案づくりのため、近江中山道の6宿場で「夢見る座談会」の開催をはじめ、愛知川66番祭への出展やその祭りで摺針餅と健康茶の販売、又夢見る座談会のビデオ上映等、新しい体験をしつつ五つのわ（話、輪、和、環、琶）の活動計画とその実践をメンバーが中心となり関係先方々の協力を頂きながら進めてきました。
- ・一番最初の「夢見る座談会」開催の折には、座談会の要領や参加者の反応はどうなる事かと色々心配や緊張もありましたが、私たちの考え方や思いも紹介し、又懐かしい昭和時代の身近な映像（写真）を見て頂く事で、涙する人もおられ会場一杯に懐かしさや和やかな雰囲気になり、お互いに何か心が通うような雰囲気になりました。
- ・その後の座談会はとても気が楽になりましたが、各座談会を通して各地域の昔からある懐かしい文化や良き生活伝統を後世に残していく事の大切さや、高齢化社会を迎えて健康で明るい社会づくりを痛感しました。

地域社会に貢献できる活動を目指して…

- ・昨今、私たちを取り巻く環境や地域社会では色々な問題が渦巻いており、世の中を暗くするような事件や事故も後を絶ちません、おうみ未来塾での経験を活かし、今後は健康的で明るい社会づくりに少しでも役に立つ地域プロデューサーを目指して頑張りたいと思っております。
- ・お世話になりました多くの関係者の皆さん、2年間本当に有難うございました。

氏名	米澤 明子
所属グループ	中山道410



2年間を振り返って

私は、NPO 団体の一員として活動し行政との温度差を感じていた時、それを埋めるすべがあるのか知りたいと思い、入塾させていただきました。

1年目、長浜市のまちづくりなど、色んな地域の実例より、こんな関わり方もあるんだと学ばせていただきました。

2年目、中山道410に入ったものの、事情でほとんど参加できないことになり、退塾も考えました。そんな私の存在を忘れずに活動の一端に触れさせていただき、何とか卒塾でき、皆さんに感謝しています。

8期生は熱い人の集まりでした。会社をリタイアされてもなお熱い思いを持ち続けてらっしゃる方、働き盛りで公私ともに責任ある立場でありながら、なお地域について考えようとする方、同じ女性で家庭や仕事を持ちながら弱者のことを気遣う方、未来を一生懸命考えている若い方…。皆さん、とっても魅力的な方たちで、会うたびにパワーをもらいました。未来塾に入らなければおそらく知り合うことのなかった方々と、同じ釜の飯を食せたことは、私にとって大きな財産です。

【編集後記】

◆卒塾記念品・風鈴（長浜市・黒壁製）



「風鈴」

風鈴は風の強弱を素直に活かし、色々と素敵な音色で鳴り響き私たちの心を和ませてくれます。

良い音色に鳴る時もあれば、そうでない時もあるでしょう。私たちが自然や現状を素直に受け止め、地域プロデューサーとして、楽しく健康的な街づくりに素敵な音色を響かせたいものですね…。

◆卒塾・まんげ鏡



「まんげ鏡」

万華鏡の中に入っている物は単純なものだけど、色や形の組み合わせ、重なり合い、つながり合いによって模様が無限に変化し、楽しく夢を与えてくれます。

私たちが仕事や性格、立場は様々ですが、出会い、つながり合い、協力連携によって地域に楽しい夢や元気を与えられるようになれたらいいですね。

又、万華鏡を手にした時々におうみ未来塾を思い出して心に灯りをともし共に頑張っていきたいものです…。

「つながり」

おうみ未来塾第8期生卒塾報告書

発行年月：2008年6月

企画・編集：おうみ未来塾8期生

発行元：淡海ネットワークセンター（財団法人淡海文化振興財団）

〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20

TEL 077-524-8440 / FAX 077-524-8442

